



医療法人社団唱和会 明野中央病院

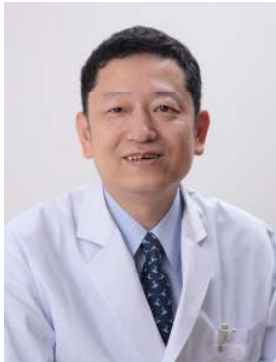
2008年度 年報 vol.2



当院2階 ウッドデッキ



ご挨拶



院長 木下 昭生

明野中央病院は、昭和49年（1974年）の設立以来、今年で設立35年を迎えます。昨年度をふりかえりますと、診療部では、整形外科での手術数の増加、看護部では7：1看護の確立、回復期リハビリ病棟の充実など病院の根幹にかかわる部分に力をそそぎました。また、地域住民や入院患者さんを対象とした高橋淳さんの講演会、吉田寛さんや県南落語会の皆さんの講演会等を行い大変好評を得ました。今年も、昨年に続き業績集を発刊することができました。是非、御一読いただき、皆様方のご批判をいただければと存じます。

病院理念

医療・介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に努める

基本方針

- 一．家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます
- 一．地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます
- 一．患者さんひとりひとりの権利を尊重するように努めます
- 一．たえず医療・介護の質の向上に努めます
- 一．地域の健康増進・病気の予防に努めます

医療法人社団唱和会 明野中央病院



目 次

ふくろうの会	1
ボランティアの会	3
病院沿革及び概要	5
職種別職員数	7
設備の概要	7
組織図編成表	8
2008年度事業報告	9
活動報告	
＜診療部門＞	
内科	14
整形外科	16
消化器科	19
＜診療補助部門＞	
リハビリテーション部	20
診療情報管理室	23
薬剤部	24
臨床検査科	25
放射線科	30
栄養科	31
医療安全管理部	33
ちょっと一息①	35
＜看護部門＞	
看護部	36
2病棟	40
回復期リハビリ病棟	42
手術室	44
外来	47



<支援部門>

訪問看護ステーション・ふくろう	4 8
居宅介護支援事業	5 0
医療福祉相談部	5 1

<事務部門>

事務部	5 3
医事課	5 5

ちょっと一息②	5 6
---------	-----

<委員会>

医療事故防止委員会	5 7
医療ガス安全委員会	6 0
感染対策委員会	6 1
情報管理委員会	6 3
IT委員会	6 4
倫理・個人情報保護委員会	6 5
褥瘡・栄養対策委員会	6 6
労働安全衛生委員会	6 9
広報委員会	7 1
サービス向上委員会	7 2
教育委員会	7 4
図書委員会	7 5
クリティカルパス委員会	7 6

ちょっと一息③	7 7
---------	-----

<その他>

NST	7 9
糖尿病会	8 1
親和会	8 2
新聞記事	8 4

地域交流会（ふくろうの会）

会長挨拶 明野旭町会長 古川 慶吾 様

2004 年の 9 月に明野中央病院地域交流会（ふくろうの会）を結成しました。

木下病院長をはじめ職員の皆様には、明野地区住民の医療と健康に日夜献身ご努力いただき、心よりお礼申し上げます。明野の住民を代表してこの「ふくろうの会」を結成いたしました。病院の現状と地域の医療ニーズを調整、議論する重要な役割を担っていると自負しています。

「私たちの病院」にはこのようにあってほしいとの思いから、病院長には耳の痛い苦言を申し上げることもあるかと思いますが、明野の「地域力」を育てるためとどうかご理解くださいますようお願いいたします。貴院は明野で唯一の一般病院です。今後とも、地域のセイフティーネットとして、明野地区 27,000 人の医療と健康を守るため、病院と地域の更なる連携体制の構築を願って止みません。

1. 設立目的

当院は病院理念に、医療介護を通じ、患者さんの生活の質の向上に奉仕するを掲げ、地域の皆様から安心信頼される病院作りを目指し日々努めております。

さらに今後も真に地域に根ざした医療機関として皆様方の期待に応えられる病院としてあるべき姿を模索しております。

そこで、広く地域の皆様方と意見交換を行い、医療全般に関する苦情、要望、今後の地域の病院として医療機関の果たす役割等についてご意見を聞きたく設立しました。

2004 年 9 月発会。

2. メンバー 2008 年 4 月 1 日現在

古川 慶吾 様（明野旭町会長）

中山 満 様（明野日の出町会長）

湯田 国男 様（明野さつき町会長）

松永 洋平 様（明野高尾会長）

中上 弘二 様（明野東町会長）

四井 昇 様（患者様代表）

長尾 正晴 様（当院 OB 代表）





第10回 明野中央病院・地域交流会（ふくろうの会）

平成20年8月27日(水) 12:30～13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼 食 ・ 検食アンケート実施 [メニューの紹介；中村管理栄養士]
3. 当院の近況報告 [中村副院長]
 - ①日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
 - ②薬剤師・尾中部長が糖尿病療養指導士に認定
 - ③管理栄養士・中村科長が日本栄養士会にて表彰
 - ④リハビリの体制を更に強化・お名前の確認
 - ⑤腰痛の手術実績
 - ⑥防災訓練 11月22日、5月22日
 - ⑦クリスマス会 12月 8日
 - ⑧AED・BLS 講習会 12月21日
 - ⑨岩本医師講演会 2月29日
 - ⑩中学生一日看護師体験 5月12日
 - ⑪第2回 ガーデンティーパーティ 5月16日
 - ⑫中村副院長講演会 5月26日、5月30日
 - ⑬吉田 寛先生講演会 6月13日
 - ⑭認知症研修会 6月30日
 - ⑮中学生職場体験 7月 9日～11日
 - ⑯糖尿病相談会
 - ⑰満足度調査
 - ⑱「ご意見箱」より
 - ⑲当院で亡くなられた方のご報告
4. 採血用穿刺器具の取り扱いについて [木下院長]
5. 高橋淳氏講演会について [中村副院長]
6. ご意見交換
7. 古川会長ごあいさつ

※ ご出席者

古川 慶吾 様（明野旭町会長）	中山 満 様（明野日の出町会長）
湯田 国男 様（明野さつき町会長）	松永 洋平 様（明野高尾会長）
四井 昇 様（患者様代表）	長尾 正晴 様（当院 OB 代表）

※ 当院出席者

木下院長、中村副院長、奥野安全管理部長、鈴木看護部長
高山事務長、湊野センター長、里谷事務次長、安部

ボランティアの会

会長挨拶 会長 志水 篤信 様

2004年8月に明野中央病院ボランティアの会として発足して5年がたとうとしています。
この間、ガーデンティーパーティやクリスマス会などの各種イベントのお手伝いや花壇の手入れなど
「できる時に、できる人が、できる事を」をモットーに“縁の下の力持ち”として活動してきました。
一人ひとりが自分のできる範囲で無理なく継続できる活動を心がけています。
私たちは医療者のお手伝いはできませんが、各種イベントで患者さん達に喜んで頂け、花壇をみて心が和んで
頂ければ、私たちの活動にとって、とてもありがたいことだと思います。
これからも地域住民として自分たちにできることをしていこうと思います。

1. 開催日

2008年 8月26日



2. メンバー 2008年4月現在

会 長	志水 篤信 様	
副会長	赤田 久代 様	田代 千枝 様
	磯部 都喜美 様	加来 邦子 様
	倉住 れい子 様	小柳 巴 様
	佐藤 邦子 様	高平 潤子 様
	立矢 一美 様	高木 美和 様
	三宮 麗子 様	石田 洋子 様



3. ボランティア内容

- ・グリーンボランティア
- ・各種イベント企画・運営ボランティア
- ・クリスマス会
- ・ガーデンティーパーティ
- ・講演会手伝い等





第9回 明野中央病院ボランティア懇談会

平成20年8月26日(火)

12:30~13:30

1. 院長あいさつ
2. 昼食・検食アンケート実施 [メニューの紹介：中村管理栄養士]
3. 当院の近況報告 [中村副院長]
 - ①日本手の外科学会 基幹研修施設に認定
 - ②管理栄養士・中村科長が日本栄養士会にて表彰
 - ③リハビリの体制を更に強化・お名前の確認
 - ④中学生一日看護師体験 5月12日
 - ⑤吉田 寛先生講演会 6月13日
 - ⑥中学生職場体験 7月9日~11日
 - ⑦満足度調査
4. ボランティア活動 [佐々木部長]
 - ①菊の展示
 - ②クリスマス会 12月8日
 - ③ひなまつり飾り
 - ④第2回 ガーデンティーパーティ 5月16日
 - ⑤正面玄関やり換え
5. 高橋淳氏講演会 [中村副院長]
6. ご意見交換
7. 志水会長ごあいさつ

※ ボランティアご出席者 (順不同)

志水 篤信 様	倉住 れい子 様
赤田 久代 様	小柳 巴 様
田代 千枝 様	高木 美和 様

※ 当院出席者

木下院長、中村副院長、奥野安全管理部長、鈴木看護部長
池田看護副部長、高山事務長、佐々木部長、里谷事務次長、安部

病院沿革

1974 (昭49) 年	1 月	医療法人社団恵愛会 大分中村病院の分院として開院。 (病床数65床) 同時に『救急指定病院』『労災指定病院』の指定取得
1978 (昭53) 年	11 月	『医療法人社団唱和会 明野中央病院』として、 分離独立
1997 (平 9) 年	3 月	社団法人日本整形外科学会認定医制度による 『研修施設』認定取得
1999 (平11) 年	5 月	第一期増築工事完成 (病床数70床) バイオクリーンルーム設置 (手術室) ヘリカルCT設置
同 年	7 月	身体障害者福祉法第19条の2の規定による 『更正医療を担当する医療機関』の指定取得
2002 (平14) 年	6 月	第二期増築工事完成 (病床数75床に増床)
同 年	7 月	「居宅介護支援事業所」を開設 MRI 設置
同 年	9 月	パワーリハビリテーション機器導入
2004 (平16) 年	1 月	一般病床45床、特殊疾患療養病棟 (Ⅱ) (30床)
同 年	3 月	『臨床研修病院』指定取得 (厚生労働大臣指定)
2005 (平17) 年	9 月	一般病床のうち、8床を『亜急性期入院医療管理料』として届け出
同 年	10 月	(財) 日本医療機能評価機構 認定病院を取得
2006 (平18) 年	4 月	『亜急性期入院医療管理料』を8床から10床に増床 院外処方箋発行開始
同 年	8 月	『訪問看護ステーション・ふくろう』開設
同 年	9 月	マルチスライスCT設置
2007 (平19) 年	2 月	特殊疾患療養病棟 (Ⅱ) (30床) を回復期リハビリテーション病棟に変更
2008 (平20) 年	1 月	社団法人日本手の外科学会認定医制度による 『基幹研修施設』認定取得

2001年 第二期増築



1973年 建設中





病院概要（2009年3月現在）

許可病床	一般病床 75床
標榜科目	内科／整形外科／リウマチ科／外科／消化器科／肛門科 形成外科／リハビリテーション科
専門外来	禁煙外来
施設基準	7：1入院基本料（7：1看護配置） 回復期リハビリテーション病棟入院基本料 脳血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） 呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）
研修施設	日本整形外科学会認定医制度研修施設 日本手の外科学会認定医制度研修施設
主な施設	一般病床 45床（亜急性10床含む） 回復期リハビリテーション病棟 30床 リハビリテーションセンター （作業療法室・理学療法室・言語療法室）
学会認定 専門医・指導医	日本内科学会 内科専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医 日本整形外科学会 整形外科専門医 日本脊椎脊髄学会 脊椎脊髄外科指導医 日本手の外科学会 手の外科専門医 日本リウマチ学会 リウマチ専門医 日本消化器科学会 専門医 日本消化器科内視鏡学会 専門医 日本外科学会 専門医 日本神経学会 専門医



職種別職員数

116名

(2009年3月31日現在)

医 師	7名	診療放射線技師	3名
薬 剤 師	2名	臨床検査技師	2名
看 護 師	39名	管理栄養士	1名
准 看 護 師	16名	栄 養 士	1名
看護業務補助者	11名	その他技術者	1名
理学療法士	7名	医療社会事業従事者	2名
作業療法士	5名	事務職員	14名
言語聴覚士	1名	その他職員	4名

設備の概要

電気設備

受電電圧 6,600V
契約電圧 230kW
負荷設備 負荷合計 700kW
動 力 300kW
電 灯 250kW
放射線 150kW

発電設備

1号機 3相 220V 115kW
対象負荷（消火ポンプ OP室照明 診察室 ナースセンター
各階非常用コンセント）

空調設備

電気ヒートポンプエアコン GE
ビル用マルチエアコン 三菱・ダイキン

昇降設備

寝台用 2基
ダムウェーター 1基

蒸気設備

給湯ボイラー シンクロヒーター 100,000Kcal/H

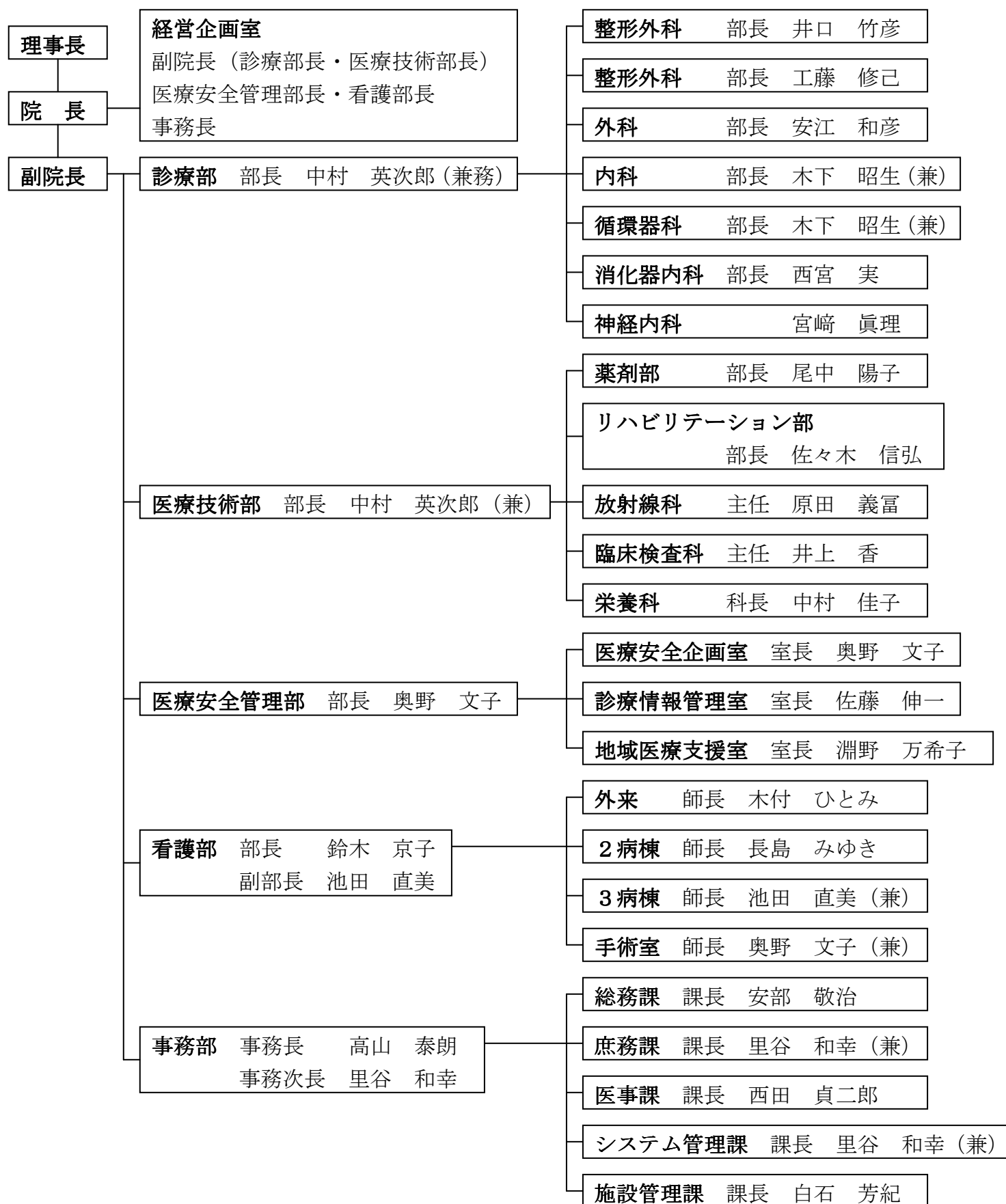
防災設備

屋内消火ポンプ 5.5kW×1
P型1級受信機複合盤



組織図編成表

2009年3月31日



2008年度事業報告

2008年 4月 ○花見（城址公園にて） 写真①



写真①

5月 ○看護の日に中学生『一日看護師体験』 写真②

○第2回 ガーデンティーパーティを開催（ウッドデッキにて）

○春の防災訓練実施 写真③

○映画『シッコ』上映会

○第19回 糖尿病相談会

○介護施設で腰痛予防教室 写真④



写真②



写真③



写真④

- 6月 ○病院対抗フットサル大会に参加 写真⑤
○コピーライター 吉田寛先生講演会 写真⑥
○第三回ボーリング大会実施
○認知症研修会



写真⑤



写真⑥

- 7月 ○中学生『職場体験』を3日間実施 写真⑦
○院内研究発表会 写真⑧



写真⑦



写真⑧

- 8月 ○慰霊祭を実施
○第七回大分外傷研究会にて中村副院長が代表世話人を務める
○第九回『ボランティアの会』実施
○第十回地域交流会『ふくろうの会』実施



9月

10月 ○職員旅行 沖縄1泊2日 写真⑨ ・下関日帰り

○明野中央病院健康セミナー“華麗なるヒコーキ野郎” 高橋淳さんを迎えて講演会

写真⑩



写真⑨



写真⑩

11月 ○第3回 ガーデンティーパーティを開催（ウッドデッキにて）

○バーベキュー大会（高尾山公園にて） 写真⑪

○第十八回大分県リハビリテーション医学会（大分市）でリハビリテーション部
理学療法士 安部奈緒子が研究発表 写真⑫

○第20回 糖尿病相談会

○秋の防災訓練実施 写真⑬

○危険予知トレーニング（KYT）勉強会実施

○第26回 大分県病院学会で看護師 山瀬敦子と武藤梨絵が研究発表



写真⑪



写真⑫



写真⑬



12月 ○クリスマス会実施 写真⑭

○病院忘年会（オアシスタワーにて） 写真⑮



写真⑭



写真⑮

2008年 1月 ○新春明野寄席実施 写真⑯

○出張健康運動教室



写真⑯

2月 ○衛藤病院 衛藤院長講演会

○第十三回研究大会 in 大阪～全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会～
にて理学療法士 加藤友也と看護師 高橋ケイ子が研究発表 写真⑰

○第二十一回 糖尿病相談会



写真⑰

3月 ○病院総会



活 動 報 告

診 療 部 門

診療補助部門

看 護 部 門

事 務 部 門

委 員 会

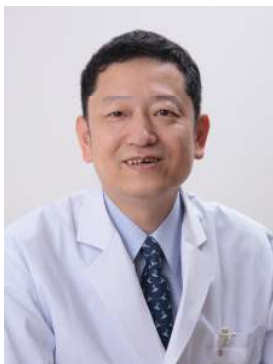
そ の 他

内科

1. 内科スタッフ構成（2008年3月）

＜常勤医師3名＞

○木下 昭生 （院長）



【専門分野】内科一般 高血圧 糖尿病 内分泌 循環器疾患

【資格等】

日本内科学会認定内科専門医

日本医師会認定産業医

内分泌代謝科（内科）専門医

【趣味・特技】

読書 プロ野球観戦

【患者さんへメッセージ】

患者さんとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。

○西宮 実 （内科部長）



【専門分野】内科一般 消化器内科 内視鏡検査・手術

【資格等】

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】ドライブ

【患者さまへメッセージ】

専門は消化器内科です。胃・腸・肝臓・胆のう、すい臓等の病気について気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

○宮崎 眞理



【専門分野】内科一般 神経内科

【資格等】

日本神経学会専門医

日本内科学会認定内科医

【趣味・特技】

読書（外国もののミステリー、サスペンス、ファンタジー等が好きです。もちろん“ハリーポッター”も）

【患者さんへメッセージ】

神経内科というと、どうしてもなじみがうすいと思いますが、頭痛やしびれ、歩きにくさ、めまいなどの症状を診ています。どうぞお気軽にご相談ください。

＜非常勤医師 3 名＞

○森永 亮太郎（大分大学医学部第二内科）

○安藤 健明（大分大学医学部第二内科）

○大谷 哲史（大分大学医学部第二内科）

2. 外来体制（2008年3月）

	月	火	水	木	金	土
午前	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生 西宮 実	木下 昭生	木下 昭生 西宮 実
午後	西宮 実 宮崎 眞理	大谷 哲史	西宮 実	安藤 健明	森永 亮太郎	

3. 受診患者数（2008年4月～2009年3月）

外来患者数

新患数	3 9 3 9 人
新患数／日	1 3 . 3 人
再来数	1 3 5 9 7 人
再来数／日	4 6 . 0 人

4. 治療方針と今後の展望

内科は、糖尿病・高血圧・高脂血症等の生活習慣病の診療を中心とした一般内科とパーキンソン病、脳卒中などの診療を中心とした神経内科、さらには大分大学からの派遣での専門外来としての呼吸器内科（週2回、火曜・金曜日午後）、血液内科（週1回、木曜午後）から構成される。糖尿病は月平均約200人の外来患者で、平均 HbA1c は6.5%であった。また、年数回糖尿病相談会として、患者参加の糖尿病教室を開催し、主食の量を自分で測り糖尿病食を実際に味わったり、野外で運動療法を行う体験型のプログラムとして好評を得ている。また、回復期リハビリ病棟では、内科での入院数は96人で、全体の37.3%をしめ脳血管障害が主体であった。

整形外科

1. 整形外科スタッフ構成（2009年3月）

＜常勤医師3名＞

○中村 英次郎 （副院長）



【専門分野】 整形外科 脊椎外科 手の外科 リウマチ関節外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

日本整形外科学会認定リウマチ医

日本整形外科学会認定運動器リハビリ医

日本リハビリテーション医学会認定医

日本脊椎脊髄病学会指導医

日本リウマチ学会専門医

日本体育協会公認スポーツドクター

日本手の外科学会認定専門医

【趣味・特技】 スポーツ（野球）、音楽（ジャズ）

【患者さんへメッセージ】

整形外科専門医として、また皆様の家庭医的立場としてアドバイスをいたします。

ご質問等お気軽におねがいたします。

○井口 竹彦 （整形外科部長）



【専門分野】 整形外科 関節外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日本整形外科学会認定スポーツ医

日本医師会認定産業医

日本医師会認定健康スポーツ医

【趣味・特技】 スポーツ

【患者さんへメッセージ】

“思いやりの心”で患者さんの身になって治療に当たる様になっています。



○工藤 修己 (整形外科部長)



【専門分野】 整形外科 外傷 関節外科 脊椎外科

【資格等】

日本整形外科学会認定専門医

日整会認定脊椎脊髄病医

【趣味・特技】 ワイン、ガーデニング

【患者さんへメッセージ】

これまで主として関節疾患、外傷、脊椎疾患、リウマチなどの治療に携わって参りました。

2. 外来体制 (2009年3月)

	月	火	水	木	金	土
午前	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎 工藤 修己	中村 英次郎	中村 英次郎 工藤 修己
午後	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	井口 竹彦	

3. 受診患者数 (2008年4月～2009年3月)

外来患者数

手術件数

623件

新患者数	4590人
新患者数／日	15.5人
再来数	18634人
再来数／日	63.1人

入院内訳 (530件)

上肢

肩関節形成術 20件

骨接合術 前腕 26件

脊椎

椎間板摘出術 41件

椎弓形成術 42件

後方固定術 29件

下肢

骨接合術 大腿 27件

人工骨頭挿入術 15件

人工股関節置換術 14件

人工膝関節置換術 65件

膝関節鏡 72件

前十字靱帯再建術 11件

その他 168件



4. 治療方針と今後の展望

整形外科は、整形外科専門医 3 名による診療体制で、急性期疾患および慢性期疾患また回復期リハビリテーション関係と幅の広い診療を行っている。大分大学医学部の整形外科教室及び麻酔科教室には特に厚い応援をいただきながらの診療で、この場を借りて御礼申し上げます。2007 年 7 月より工藤医師が新たに加わり診療の質が大きく向上した。特に変形性関節症に代表される慢性期関節関連手術（特に人工関節）や半月損傷、前十字靱帯損傷などのスポーツ外傷、また関節鏡を利用した肩関節手術などの症例がたいへん多くなっている。また腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症に対する顕微鏡手術、脊椎固定術も多く行っている。モットーとしては、やや時代に逆行する感もあるが、患者さんが直ることが最重要で手術に代表される急性期治療のみならず術後リハビリや在宅での生活までも考えた治療を心がけている。つまり厚労省指導の急性期、慢性期などの机上の病院機能分類の充実も大切ではあるが、患者さん満足度をもっとも重視し診療をすることが重要と考えている。幸い当院には急性期、亜急性期及び回復期リハビリテーションの 3 種類の病床がありこの 3 つの病棟区分を駆使して少しでも患者さん満足度が向上するように努力している。 外来患者さんは、明野周辺在住の方のみならず、市内外遠方より尋ねて来られる方も多く、その年齢層も 0 歳児から 100 歳の超高齢者まで非常に多岐にとんでいる。外来患者さんの増加にともない外来待ち時間の短縮が早急な課題であり、予約外来等の充実で一分でも早く診療が進むように努力している。近隣の整形外科の先生方のみならず、内科、精神科の先生方にもたいへんお世話になっております。本当に感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

周術期管理について

大分大学医学部麻酔学教室のご厚意で、たいへんありがたいことに 2009 年 4 月より本院へ待望の麻酔科常勤医が着任した。以前より当院の整形外科手術は人工関節や脊椎手術が多く、また高齢者の骨折など、手術侵襲に伴う合併症の発生や持病の悪化など、さらには深部静脈血栓症などの問題などが危惧されることであった。手術中の麻酔のみならず、周術期（手術前後）の治療、予防管理をさらに徹底することは大きな課題であった。麻酔専門医の常勤医：森 正和先生を迎えることができたことは本当に大きな喜びであり今後診療の幅、質が向上することは疑いない。今後さらに周術期の安全管理、疼痛の管理など充実を計っていききたい。

消化器科

1. スタッフ構成（2009年3月）

<常勤医師2名>

○西宮 実（内科部長）



【専門分野】 内科一般 消化器内科 内視鏡検査・手術

【資格等】

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】 ドライブ

【患者さまへメッセージ】

専門は消化器内科です。胃・腸・肝臓・胆のう、すい臓等の病気について気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

○安江 和彦（外科部長）



【専門分野】 外科

【資格等】

日本外科学会外科専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

【趣味・特技】 釣り、料理

【患者さんへメッセージ】

ていねいな説明を心がけ、安心、納得して治療を受けて頂けるよう、努力します。

2. 外来体制（2009年3月）

	月	火	水	木	金	土
午前	西宮 実 安江 和彦	西宮 実 安江 和彦	西宮 実	西宮 実 安江 和彦	安江 和彦	西宮 実 安江 和彦
午後	西宮 実 安江 和彦	安江 和彦	西宮 実	安江 和彦	安江 和彦	

3. 治療方針と今後の展望

当院消化器科は内科医・西宮実と外科医・安江和彦の2名で診療にあたっております。取り扱った疾患は消化管疾患（逆流性食道炎、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクテリウム感染、胃・大腸ポリープ、感染性胃腸炎、クローン病、腸閉塞、大腸憩室症、胃・大腸癌術後など）、肝・膵・胆疾患（慢性肝炎、肝硬変、胆石胆嚢炎、閉塞性黄疸、急性・慢性膵炎）などでした。その他、各種悪性疾患の終末期緩和治療も行っていました。内視鏡検査においては上部消化管が381件、下部消化管が86件、ERCPが4件でした。また、内視鏡的胃瘻造設術9件、胃瘻交換41件でした。その他の処置としてポリペクトミー、胃癌粘膜切除術、閉塞性黄疸に対するドレナージ、ステント留置術、総胆管結石除去術、止血術等を行っております。

リハビリテーション部

1. 概要

2007 年 2 月に回復期リハビリテーション病棟が開設し、言語聴覚士 1 名を補充することにより総合リハビリテーションの提供が可能となる。

2008 年 4 月には、回復期リハビリテーション病棟で成果主義の導入があり、入院料が 2 ランク化し、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の施設基準を取得した。

また、理学療法士 1 名、作業療法士 2 名を補充することが出来、脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) の施設基準の取得が可能となる。

2. スタッフ構成・勤務体制

○スタッフ (計 16 名)

- ・ 理学療法士 8 名 (佐々木、安部、後藤、福留、生野、加藤、大嶋、紺野)
- ・ 作業療法士 5 名 (淵野、安部 (奈)、村上、後藤 (順)、安本)
- ・ 言語聴覚士 1 名 (松本)
- ・ 健康運動指導士 1 名 (嶋田)
- ・ 助手 1 名 (坂本)

○勤務体制

- | | |
|----------|--------------------------|
| 2 階病棟・外来 | 専従・・・理学療法士 3 名、作業療法士 2 名 |
| 回復期 | 専従・・・理学療法士 4 名、作業療法士 3 名 |
| | 兼務・・・理学療法士 1 名、言語聴覚士 1 名 |

○2008 年度の取り組み

- ・ リハビリテーション実施患者数：1021 人
- ・ 疾患別患者数
 - 運動器リハビリテーション 887 人
 - 脳血管疾患等リハビリテーション 161 人
 - 呼吸器疾患リハビリテーション 3 人
- ・ 療法科別
 - 理学療法 802 人
 - 作業療法 472 人
 - 言語聴覚療法 67 人
- ・ 回復期リハビリテーション実施患者数：245 人
- ・ 疾患別患者数
 - 運動器リハビリテーション 143 人
 - 脳血管疾患等リハビリテーション 111 人



・療法科別

理学療法	244 人
作業療法	169 人
言語聴覚療法	49 人

○2009 年度の目標

目標：早期に目標設定を確立し、チームアプローチにより円滑な在宅復帰を目指す。

(基本方針)・総合実施計画書の早期作成および定期的な見直しを行う

- ・ FIM を活用し、「している ADL」をめざす
- ・ 専門知識・技術の修得に努める

○学会・研修会参加実績

- ・ 第 18 回大分県リハビリテーション医学会

2008 年 11 月 9 日 演題発表 O.T. 安部奈緒子

- ・ 全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第 13 回研究大会

2009 年 2 月 14 日、15 日 演題発表 P.T. 加藤友也

○2008 年度実習生の受け入れ

理学療法	5 月 12 日～7 月 12 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
	8 月 4 日～10 月 11 日	藤華医療技術専門学校	1 名
	2 月 3 日～3 月 14 日	藤華医療技術専門学校	1 名
作業療法	4 月 22 日、5 月 13、20、27 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
	6 月 17、24 日、7 月 1、8 日	大分リハビリテーション専門学校	1 名
言語聴覚	7 月 14 日～9 月 5 日	長崎リハビリテーション学院	1 名
(合計 6 名)			

○総括

平成 18 年 4 月に疾患別リハビリテーションの概念に基づいた診療報酬の改定と算定日数の上限が設定され、それから 2 年が経過した。今回の診療改定では、疾患別リハビリテーション料の見直しと逓減制の廃止、ADL 加算の廃止と早期リハビリテーションの新設、算定日数上限の実施後の規定緩和などが制定された。また、回復期リハビリテーション病棟では、入院料の 2 分化と重症患者回復病棟加算が新設され成果主義の導入がなされた。

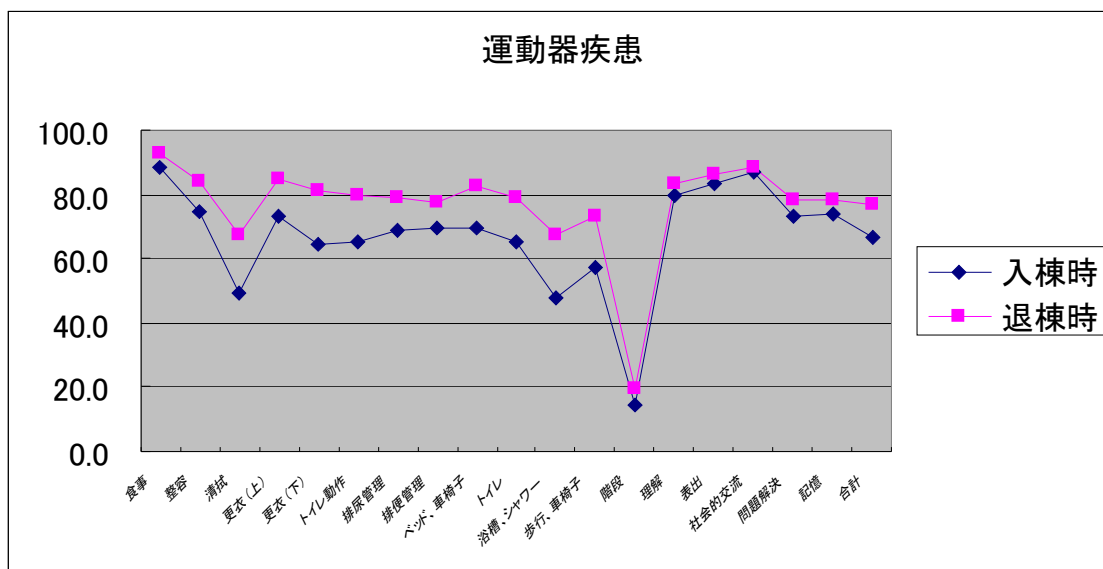
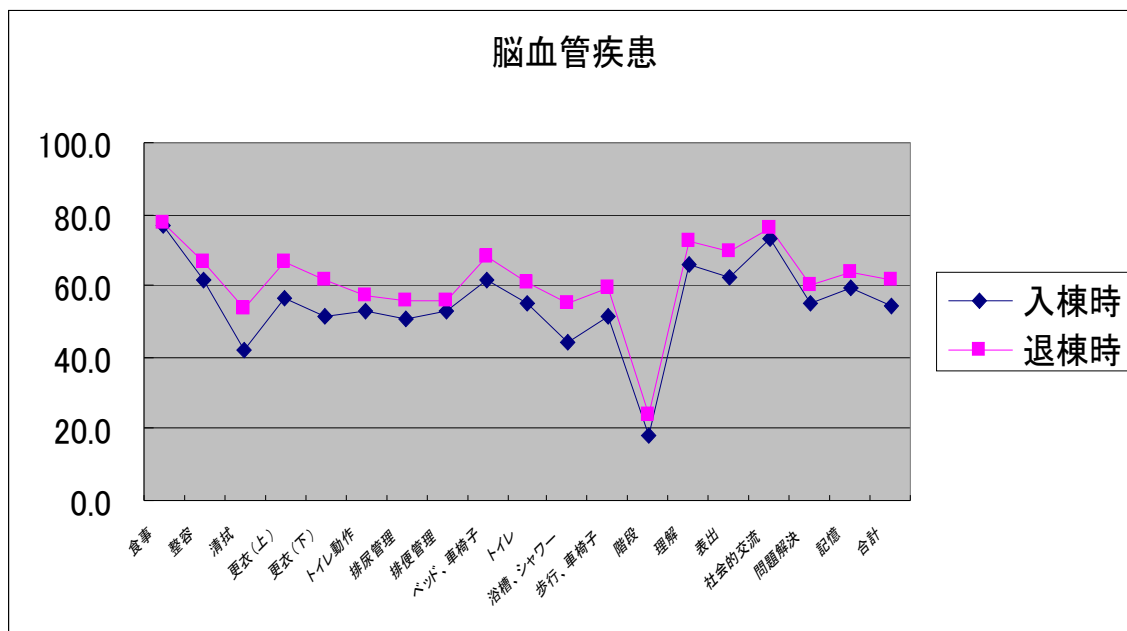
当院では、以下の実績により回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の施設基準と重症患者回復病棟加算も取得することが出来た。

回復期リハビリテーション病棟の実績としては、入院患者数 245 名、在宅復帰率は 83.5%であった。ADL 改善では、脳血管疾患：入院時 68.8、退院時 77.2、運動器疾患：入院時 84.3 点、退院時 96.7 点であった。(ADL 評価は、FIM を使用)



08年6月～09年3月退院患者 FIM疾患別平均点及び疾患別グラフ

(満点(項目別7点、合計126点)に対する割合)





診療情報管理室

1. 概要

- ・入院診療録等の回収・点検・貸出 ・ I C D-10 によるコーディング・統計作成業務
- ・院内情報システムの保守・管理 ・ 開示対応・個人情報保護法に関する窓口業務

2. スタッフ構成

2名(診療情報管理士 1名)

3. 2008年度の取り組みとその成果

1.カルテの質の向上

全退院カルテに監査を行った。監査内容は情報管理委員会にて報告し、委員会の中でもカルテの監査を行い監査の徹底を図った。またカルテの仕切りを新規作成した。それに伴い診療録編綴規程の見直しをおこなった。

2.入院カルテを退院後14日以内に管理室へ保管する

7月より達成率を表にまとめて情報管理委員会にて発表したが、平均73%と数字上では良くなかった。来年度は数字で目標を明確にしたいと考える

☆08年7月～09年3月退院サマリー達成率								
7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
68.2	71.4	75.3	83.5	79.8	77.0	68.3	68.6	66.3

4. 2009年度の重点目標

達成率の年間平均80%以上と設定する。各関係部署の会議に積極的に参加し達成率の向上を目指す。
08年度学会等の参加が少なかったので、日本診療録情報管理学会に入会し学会参加を行いたい。

5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

09年1月 日本病院会九州ブロック研修会 参加 1名

08年11月 大分県病院学会 参加 2名



薬剤部

1. 概要

院内調剤、服薬指導

2. スタッフ構成

薬剤師 2名

3. 2008年度の取り組みとその成果

入院患者の内服薬を薬剤部にて一元管理することにより、患者の内服状況、残薬確認をスムーズに行うことができた。また、その情報を基に、各部署への情報提供を行い、チーム医療への貢献を果たした。
(例えば、抗凝固薬の内服状況を栄養科に報告することにより、併用禁止の食材を提供しないようにする、等)

4. 2009年度の重点目標

- マニュアルの整備と見直し
- 各部署の配置薬の内容を見直す

5. まとめ

各部署の協力により、入院患者の内服薬管理を一元的に行えるシステムが確立、浸透してきた。
これにより、術前の内服薬管理や、併用禁止食材などの取り扱いもスムーズに行えるようになってきた。
このシステムをこのまま継続していきたいと考えている。
各部署に配置している薬剤のうち、医療技術の進歩とともに使用頻度が低くなった薬品などを見直し、在庫管理のスマート化を図っていきたい。



臨床検査部

1. 概要

検体検査：生化学・血液一般・血液型・交差適合試験・不規則抗体スクリーニング

尿一般・尿沈渣・関節液・髄液一般・妊娠反応・血液ガス・感染症定性検査（HBs抗原・HBs抗体・HCV抗体・TPHA）・凝固検査（PT）
トロポニンテスト

生理検査：心電図・負荷心電図（マスター）・ホルター心電図・ホルター解析・肺機能
筋電図・体性感覚誘発電位

2. スタッフ構成・勤務体制

スタッフ構成：臨床検査技師2名・衛生検査士1名

勤務体制：日勤（08：30～17：30）

臨床検査技師1名で主に生化学・免疫学検査を担当

（09：00～18：00）

臨床検査技師1名で主に血液学・生理学・一般検査を担当

※ 臨床検査技師は1週間ごとに勤務交代を行う

※ 臨床検査技師が1名の場合は全業務を担当する

（09：00～12：30）

衛生検査士1名で一般検査を担当

夜間待機（18：00～08：30）

臨床検査技師1名

※ 時間外の緊急対応に備えて待機用の携帯電話を所持している。

呼び出し内容に応じ、迅速かつ適切な対応を行う。

3. 2008年度の取り組みとその成果

① 生化学汎用機器の入れ替え

8月に生化学の機械入れ替え作業を行う。また、新しい機器の導入に伴って検査室の配置を大きく変更した。

これを機に検査手順マニュアル改訂を行い、新入職員や機能評価に向けて大きく活用出来た。

② その他の取り組み

特定健診への対応として検査セット項目の見直しをオーダーシステムなど、円滑に行えるよう関係部署と取り決めを行う。



4. 2009年度の重点目標

- ① 検査技師として個々に技術の向上に努め、検査室としての役割を果たす
新たな職員と共に原点に戻り、外部研修会への参加を心掛ける
- ② 検査機器管理など安全性を追求した業務の見直しと、マニュアル改訂
新しく導入した機器の機器管理マニュアルの新規作成と改訂を行う

5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

・第57回 日本医学検査学会（1名）

6. まとめ

2007年度に続き2008年度もスタッフ構成に変化があり、また主要な生化学機器の入れ替えやそれに伴った検査室の配置も大きく変わった。

それによって、円滑な検査業務に反映出来るような環境が整ったのではないかと考える。この環境を活かして迅速な対応、技術向上に繋げたい。





生化学・免疫

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
TP	425	404	390	472	463	412	450	378	410	390	381	422	4997
Alb	285	244	257	299	254	244	300	237	279	253	246	281	3179
T-Bil	336	339	324	396	381	344	383	308	325	336	312	347	4131
LDH	427	401	390	468	458	414	451	380	413	389	377	419	4987
AST	437	475	406	483	473	430	468	410	439	411	391	455	5278
ALT	437	475	406	483	473	430	468	409	439	411	391	455	5277
γ -GTP	231	271	232	264	218	223	296	229	255	232	216	266	2933
ALP	342	344	321	395	382	344	382	312	328	335	311	346	4142
CPK	186	201	173	241	266	213	194	192	195	205	177	197	2440
T-cho	200	242	196	216	180	164	229	171	192	176	156	202	2324
TG	200	243	194	212	178	169	228	173	204	177	156	219	2353
HDL-cho	195	239	190	211	175	168	228	172	202	172	154	217	2323
Glu	564	590	540	598	577	550	591	519	564	537	530	577	6737
BUN	415	393	378	469	456	400	445	366	399	381	380	418	4900
Cr	415	392	379	469	455	401	445	366	399	379	380	417	4897
UA	179	167	168	208	165	152	212	148	166	160	150	187	2062
血中 Amy	198	195	187	248	268	222	213	200	210	212	191	210	2554
CRP 定量	464	458	449	553	511	475	509	418	468	442	438	480	5665
CRP 簡易法	12	13	11	17	18	16	7	17	13	18	11	12	165
RA 定性	15	14	8	7	14	9	13	7	5	10	11	13	126
Na	404	384	371	464	454	400	435	353	391	369	370	399	4794
K	404	384	370	464	454	400	435	354	391	369	371	400	4796
Cl	404	384	370	455	452	398	435	352	391	39	369	399	4448
Ca	168	160	157	194	152	141	200	132	157	149	142	166	1918
HBs 抗原(定性)	91	101	100	106	104	94	109	93	113	108	76	106	1201
HBs 抗体(定性)	7	5	10	2	5	6	6	1	4	6	6	13	71
HCV 抗体	96	102	99	107	102	94	110	94	114	109	77	103	1207
TPHA	87	91	88	102	93	83	102	89	100	101	72	94	1102
インフルエンザ	36	6	0	0	0	0	2	11	123	313	103	46	640
トロポニンT	1	3	3	4	6	3	2	2	4	7	5	3	43
HbA1c	186	187	190	191	199	191	195	191	215	198	197	220	2360
血糖負荷試験	3	4	3	3	2	2	2	3	3	1	6	10	42



血液学検査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CBC	533	591	533	620	564	540	567	496	543	516	503	552	6558
出血時間	65	57	72	85	77	61	72	70	81	70	61	80	851
凝固時間	65	57	73	85	77	61	72	70	81	70	61	80	852
血液型	37	37	35	45	45	35	41	39	42	40	31	42	469
不規則抗体	6	5	4	0	2	5	4	1	1	5	6	8	47
クロスマッチ	7	4	6	0	2	10	7	2	2	5	12	11	68

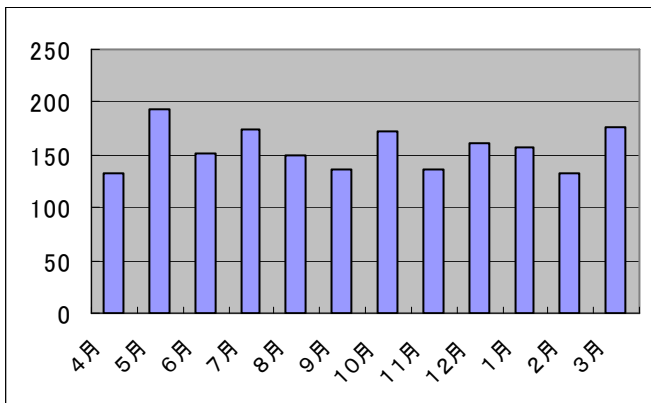
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血ガス	10	8	11	18	14	12	13	8	12	18	15	21	160

一般検査

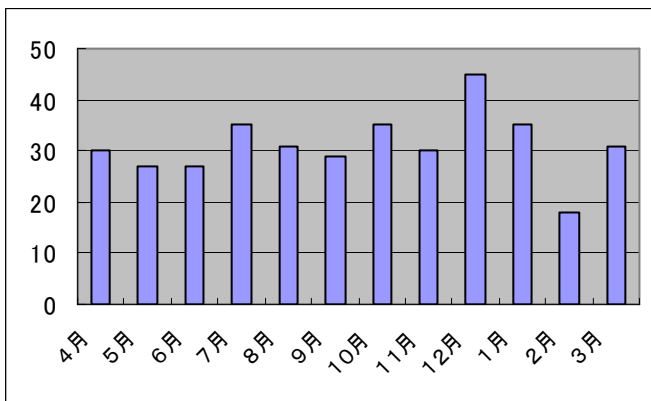
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
尿一般	366	346	372	421	382	368	420	360	470	382	390	411	4688
尿チンサ	104	97	101	129	110	116	136	99	99	107	112	95	1305
尿中Alb・Cr	63	57	36	41	54	54	49	41	49	43	54	47	588
関節液	2	2	2	6	6	0	9	4	2	2	2	6	43

生理学検査

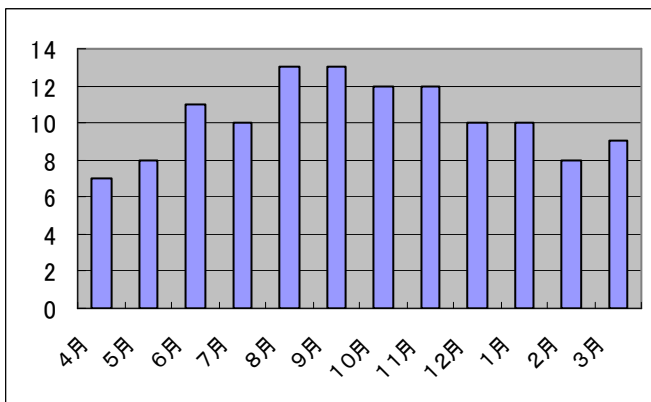
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	133	193	152	174	149	136	172	137	161	157	133	177	1874
3分間	0	8	1	2	0	5	3	3	5	4	3	4	38
ホルター心電図	2	1	2	2	1	2	2	0	0	1	3	2	18
スパイロ	30	27	27	35	31	29	35	30	45	35	18	31	373
SEP	7	8	11	10	13	13	12	12	10	10	8	9	123
MCV	0	0	2	1	0	4	1	1	4	0	0	3	16



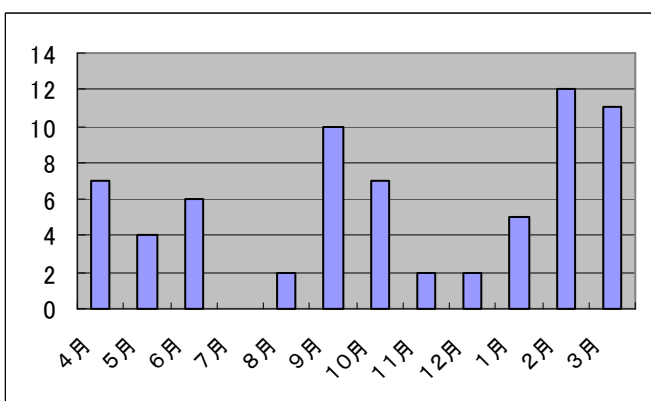
心電図



肺機能



SEP



クロスマッチ

放射線科

1. 概要

2008年度は、フィルムレスへ向け取り組み、PACS などによる情報の共有を図った。また、放射線機器の管理・保守の充実を今後も引き続き行う。

2. スタッフ構成

放射線技師 3名

3. 2008年度の取り組みとその成果

フィルムレスへの移行をスムーズに行え、PACS などによる情報の活用と共有、確認が正確にできるようになった。

また、放射線機器の管理・保守の充実を今後も引き続き行う。

4. 2009年度の重点目標

1. 個々の技術向上
2. 個々の知識向上
3. 業務効率化

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般	891	888	918	1033	897	922	942	816	960	843	797	944	10,833
透視	20	23	34	33	21	27	24	28	25	18	19	25	297
CT	125	113	118	125	121	120	137	121	119	116	122	147	1,484
MRI	119	122	126	125	124	126	139	128	114	117	116	147	1,503
Dr.net	30	26	30	38	41	30	33	28	24	33	42	29	384

5. まとめ

フィルムでの診療を行っていた昨年度と比べ、フィルムレスに変更した2008年度は検査に掛かる時間を大幅に短縮できた。また、検査機器の管理を充実させることができた。今後も保守など迅速な対応が取れるようにする。





栄養科

1. 概要

給食管理・・・食数管理、献立作成、食材発注、在庫管理等

衛生管理・経営管理・労務管理・報告書作成・栄養食事指導・栄養管理計画書の作成

2. スタッフ構成

管理栄養士（1名） 栄養士（1名） 調理師（2名） 調理員（2名、午後パート1名含む）

人材派遣会社より 調理員（3名、午前パート1名含む）

3. 2008年度の取り組みとその成果

① 摂取量をあげ、治療効果を高める食事を提供する

②誤配膳を防ぎ、安心 安全な食事を提供する

全入院患者の栄養計画書の作成 1187件

栄養指導件数 53件

4. 2009年度の重点目標

① 全入院患者の栄養計画書の作成、評価、継続

② 栄養相談や栄養指導、後期高齢者の退院時指導件数のアップ

③ 摂取状況の把握（昼食時訪室）

④ チーム医療への参画（NST、褥瘡回診、糖尿病相談会）

5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

< 実習生の受け入れ >

8月 別府大学短期大学部食物栄養科 （2名 2週間）

2月 別府大学食物栄養学部食物栄養学科 （3名 3週間）

< 学会・研修会 >

6月 大分県調理師試験準備講習会（薬剤師会館）において栄養学の講義をする
（社）日本栄養士会通常総会に出席 日本栄養士会より表彰される

8月 第15回国際栄養士会議参加（横浜）
保健所研修会参加（大分市）

9月 特定保健指導担当者研修会修了

10月 調理師研修会参加（大分市）

11月 臨地実習事前講演『総合栄養マネジメント演習』（別府大学）

12月 第8回栄養士学会参加（大分市）

1月 保健所研修会参加（大分市）



実務研修会参加 （大分市）

第 24 回日本静脈経腸栄養学会参加 （鹿児島）

6. まとめ

満足度の高い医療を支える栄養管理を目指し、治療の一環としての食事を提供する事はもとより、個々の患者の嗜好や特性に配慮し一食一食喜んで食べて頂ける食事の提供に取り組んでいます。また病院の職能組織としてモチベーションを常に考えた活動を基本に、安心・安全な食事の提供、危機管理の責務を果たしていくことが重要と考え、職員教育の充実を目指しています。



医療安全管理室

1. 概要

医療事故防止等の安全管理業務、感染対策に関する業務、医薬品の安全使用に関すること、医療機器の保守点検・安全使用に関する体制整備を推進する役割を担う。

2. スタッフ構成・勤務体制

医療安全管理者 1名（看護師）

3. 2008年度の取り組みとその成果

安全管理室の理念 「安全文化を根付かせ 事故防止に努める」

基本方針

安全マニュアルの見直しと周知

ミニ安全教育の実施

転倒転落事故の低減

活動実績

安全マニュアルの見直しと周知

① 「自己血輸血マニュアル」

自己血の保管が血液センターでできなくなったため、検査室及び病棟師長・外来師長と共に、また福岡自己血輸血研究会編の「自己血輸血ハンドブック」を参照しながら、自己血輸血フロー・自己血輸血指針・自己血輸血マニュアル・自己血輸血採血手順書・貯血、ご入院の計画書のみなおしをおこなった。エボジン I V→エスポー I Mの変更も周知させた。

② 「離床センサー（マッタ君）使用マニュアル」

転倒転落事故の原因のひとつに、離床センサーを適切に使用していなかったり、電源をON・OFFが適正に施行されていなかったのを見直しと周知を図った。

③ 「点滴注射施行マニュアル」

三重県の某病院で起こった点滴の作り置きによる医療事故に鑑み、特に点滴作成時点に重点を置いて見直しを行った。

④ 「受付・外来対応マニュアル」

気分不良患者へのきめ細かい対応について受付・総合案内・外来の連携を強化するように見直した。

⑤ 「造影CTチェックリスト」

造影CT時に造影剤漏洩による重大事故を防止する為にチェックリストを作成した。

⑥ 「患者取り違え防止パンフレット」

患者取り違え防止は医療事故防止のための全国共同行動目標の一つでもあり当院でも外来診察室や検査室・リハビリテーション室等に掲示した。



ミニ安全教育

- ①恒例の新入職員オリエンテーションにて、安全管理・感染対策についてミニ教育を行った。
- ②師長・主任会議にて安全管理についての議題を提供した
- ③看護部会では特に重要と思われる安全情報について解説した。(ハイリスク薬等)
- ④年2回の安全管理教育の企画を行った。
- ⑤月朝礼にて安全管理の啓蒙を行った。

転倒転落事故の低減

- ①離床センサーの適正使用について、指導し回診時にチェックした。
- ②2階・3階の踊り場に転落防止の柵を設置
- ③抑制帯の整備

その他

- ①全国規模で問題になった微量採血器具の使い回しによるC型肝炎ウイルス感染について臨時会議(院長・事務長・安全管理室長・看護部長・薬剤部長)を開催した。
適正器具の選定・問い合わせマニュアルの作成・ポスターの作成等を行った。
- ②患者誤認防止について
 - ・早朝カンファレンスにて安全管理室より同姓患者・同名患者を発表し注意を喚起してきた。
 - ・誤認防止策として「患者さん自ら名乗っていただく」「リストバンドでの確認」「ベッドネームでの確認」を励行
 - ・月初めに入院患者のリストバンド・ベッドネームのチェックを行った。

4. 2009年度の重点目標

目標 「職員の安全管理意識の定着を図る」

1. インシデントレポートの活用
安全マニュアルを各部署2個以上見直す。
2. 安全教育の実施
年4回以上実施(安全管理・感染対策・医薬品の安全な取り扱い・医療機器)
3. 転倒転落事故の低減
原因を分析し、各々の対応マニュアルを整備

5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

日本マネジメント学会大分地方会・医療連携フォーラム・転倒予防教室研究会・第1回大分県医療ガスセミナー・テルモメディカルセミナー・医療安全に関するワークショップ

ちょっと一息①

花日記 Part I ～2階ウッドデッキから～

2階のウッドデッキにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。

傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

“病気になって知る健康のありがたさ”

今回病気になって日頃の健康のありがたさをヒシヒシと感じました。

いかに常日頃の健康管理が必要であるか。

そして院長先生、諸先生方、看護師の皆様方の献身的なる診察・治療又病人の身になって親切にしかも優しく応対して下さい、感謝するのみです。

自分の人生の中で今日のこの気持ちは決して忘却は致しません。

一日も早く元気になって人様の役に立ち、手助けが出来る己になろうと心を新たにしました。

他人の心と身体の痛みが分かる人間になろうと自分に強く言い聞かせました。

素直にありがとうと言える自分「我」「執着」「慢心」の心を捨て、何時も感謝の気持ちを持ち続け、他人のために役立つ人間に成長しようと決意した今日です。



“世界一の嫁に感謝”

今日は今が満開の紫陽花の花を持って来て下さり、真っ赤な花を花瓶に挿してくれた。

今頃、我が家の庭の廻りには色とりどりの紫陽花が咲き乱れているだろう・・・と

思い浮かべていた矢先のこと、嫁が自分の今の気持ちを察したのか？

こうしたチョットの気配りの出来る嫁に涙の出る程の尊敬と嬉しさを感じ幸せな自分だろうと病床より心に手を合わせ感謝致しました。

家庭では家事全ての仕事、育児と多忙な中、こうして何度も病院に来て見舞ってくれこの気持ちだけで励まされて元気になりそうです。

我が家の嫁さんほんとうにありがとう。



看護部

1. 概要

一般病床45床、回復期リハビリ病棟30床、計75床で、急性期から、亜急性期、回復期までの地域に密着した医療を担っています。

看護背景：7：1看護（一般病棟）

看護提供：固定チームナーシング＋受け持ち制

看護体制：3交替（日勤・準夜勤・深夜勤）

看護職数（平成20年4月1日現在）

看護職員	52名（臨時職員を含む）
看護師	39名
准看護師	13名
看護助手	10名

看護部 理念

安全と安楽を第一に患者さん中心の看護を実施する

看護部 基本方針

- ・ 患者さん、ご家族と共に看護計画を立て、看護を行います
- ・ 安全と安楽を優先させ、24時間責任ある看護を実施します
- ・ 患者さんの療養環境を清潔に保ちます
- ・ 看護の質の向上に努めます。

2. 2008年度の取り組みとその成果

「受け持ち患者全体を捉えた看護の提供」を目標に取り組んだ。カンファレンスの定着により、スタッフの受け持ち患者意識は高まり、問題点の共有が図れるようになった。

看護計画立案や、サマリーにも受け持ち患者意識の高まりが見られた。しかし、患者全体を捉えた看護までは至らなかった。また、7：1看護体制以降、新人看護師の増加もあり、新たな問題に、十字チャートで分析を行い2009年度の目標とした。

スタッフの良い所を見つけ投書（フィッシュ箱）してもらい、看護部会で表彰する取り組みも行った。思いやりや、感謝の言葉も多く聞かれこのまま継続の予定。

3. 2009年度の重点目標

1. 一定の質の看護の提供

- ① マニュアルを活用して看護実践を行う
- ② クリティカルパスの使用症例数を増やす
- ③ 標準看護計画を実践できるように改定する



2. 教育システムの構築

- ① 職能要件に合わせた、クリニカルラダーの具体的計画の立案
- ② ラダーに沿った教育計画
- ③ 目標管理の継続

4. 看護部の組織活動

5月 看護の日のイベント 看護師体験ツアーと題し、明野中学の生徒さんを招き一日看護師体験を行なった。

7月 近隣の中学校の依頼の職場体験を受け入れている。

看護部の委員会活動、会議

師長主任会議	(月1度開催)
教育委員会(記録)	(月1度開催)
医療安全委員会	(月1度開催)
感染委員会	(月1度開催)
褥創NST委員会	(月1度開催)
マニュアル委員会	(月1度開催)



学会・研修会の参加実績

月日	内容	開催場所	参加
4/19	看護必要度の基本的理解と運用の実 際	大分県看護協会	2名
5/25	日本褥創学会 九州地方会教育セミナー	長崎	2名
6/7 6/8	日本整形外科看護研究会学術集会	横浜市 浜銀ホール」	2名
6/7	転棟転落予防教室 研究会	湯布院厚生年金病院	2名
6/25	看護職の自律をめざして	大分県合同庁舎 大分県福祉保健部	1名
7/5 7/6	キャリア開発と人的資源の活用	別府ビーコンプラザ 日本看護協会	2名
7/6	感染防止に関する研修会 採血器材の使用法	大分県看護協会	2名
7/10	コミュニケーション研修	大分市 病院協会	1名
7/27	大分県医療ガスセミナー	江藤酸素ビル	2名
8/2 8/3	回復期リハビリテーション 病棟師長研修会	東京（笹川記念館） 回復リハビリ	1名
8/9	地域貢献事業講演会 診療報酬改定の仕組みと看護サービ ス	大分大学付属病院	2名
10/30,31	看護管理者学会	熊本 日本看護協会	2名
10/26	病院総看護師長研修会 病院と地域をつなぐ看護の役割	大分県看護協会 大分県福祉保健部	1名
12/19,20	トップマネジメントに役立つ 看護管理	大分県看護協会	1名
11/24	大分県病院学会 2題 発表	別府ビーコンプラザ	発表 4名 参加 8名
2/7	大分地区講演会 「リレー・フォー・ライフへの想い」	大分市保健所会議室	1名
3/15	大分県における肝疾患治療の現状と インターフェロンの治療助成制度	大分県看護協会 大分大学医学部肝疾 患相談センター	2名
	NST 専門療法士教育実習参加	新別府病院	1名



その他

認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修

池田直美

5月16日～11月21日までの21日間

医療安全管理者要請研修 12月6日～12月26日までの5日間

長島みゆき

その他の 看護協会教育研修 8名

大分大学医学部 看護技術研修会 5項目 5人

大分国体救護班として看護部より派遣

救急の日の行事一日救急隊長 参加



2 階病棟

1. スタッフ構成・勤務態勢

1) スタッフ構成

看護師長 1 名 副看護師長 2 名 主任 2 名 看護師 21 名（内パート 4 名）
准看護師 6 名 看護助手 3 名 病棟クラーク 1 名

2) 勤務体制

3 交代制

日勤 8 : 30 ~ 17 : 30
準夜勤 16 : 30 ~ 1 : 00 深夜勤 0 : 30 ~ 9 : 00 各 2 名
早出 6 : 00 ~ 10 : 00 遅出 17 : 30 ~ 21 : 30 各 1 名
固定チームナースングと受け持ち制の併用

2. 2008 年度の取り組みとその成果

目標 入院から退院まで責任を持った看護が提供できる

- ①問題点を把握し、看護計画を立案する
- ②看護計画にそった記録・ケアができる
- ③1 週間毎に計画・修正ができる
- ④退院指導が行える

方法 前年度同様グループ編成し、各グループで活動を行う。評価は 1 週間毎に行い、病棟会議で 1 ヶ月の結果を発表する。

- 1 G 1. 病状変化に伴い看護計画が立案されているか。 2. 疾患だけでなく個別性がだされているか。 3. ADL 状況から計画が書かれているかを重点的に 1 週間毎に担当者を決めカルテチェックを行いカンファレンスや、個人的に声かけしていきながら計画を立案していくようによびかけた。
- また、ケアプランが立案されなければケアの面で患者に不自由をかけるため受け持ち看護師が立案していない事にすぐ気がつけるように、ADL 表のカードを作成しカルテにはさむようにした。
- 2 G 1. SOAP で記録が書かれているか。 2. 計画とともにケアが実践されているかの 2 点を 1 週間毎に担当者を決めカルテと、介助表をチェックし、記録が出来ていないものには、SOAP のカードを作成しカルテにはさみ、ケア計画が書かれていないものには個人的に呼びかけたり、チームに協力してもらって、ケアの実践を行ってもらった。
- 3 G 1 週間で評価・修正がされていないものにはイエローカードを 2 週間後もされていない場合はレッドカードをカルテにはさみ、カンファレンスでもよびかけ、指導 N s から指導をしてもらうように声かけを行った。
- 4 G 退院が近くなった時点で退院を示すお花マークのカードを作成しカルテに表示し退院指導をよびかけ、記録に残すようにカンファレンスや、個人指導を行った。



成果・反省

- 1 G 前年度は24時間以内に計画を立案することも出来ていない状況もみられたが、100%立案は可能となった。しかし、看護師の一方的なとらえで立案され、患者・家族の意見もふまえて立案することができたら、もっと効果的だと考える。

ケア計画・実践もよく行えていたが、受け持ち看護師というより、チームの協力が大きかったようである。状況変化とともに受け持ち看護師が責任をもって立案できるように取り組む必要がある。

- 2 G SOAPで記録を書くという面ではかなり充実した記録になってはきたが、まだSOAPで記録を書くという習慣がついていない看護師が数人いるため個人指導が必要である。

ケアの実践も行えているが、記録にまで残せていないのが現状である。今後は記録もケアとともにこなえるよう取り組む必要がある。

- 3 G 1週間毎の評価まで業務におわれ出来ないと口にしていたスタッフの意識がかなり変わり、空き時間を利用したり、残って評価をしあげて帰るスタッフの姿がみられるようになり、1週間毎の評価の意識が向上したと思われる。今後はその評価・修正の内容を充実させていきたいと考える。

- 4 G 退院指導という意識から、記録に指導の内容が充実してきたが、計画的にすすめられているわけではなかった。立案の時期や、指導のタイミングにずれが生じたりで指導ができていないケースもある。このことから、早期から取り組むことや、パスを使用することで指導の効率化をはかる必要があると考える。

3. 2009年度の重点目標

今年度は、看護部理念にもかかげられているように、患者・家族とともに看護計画を立案することが出来るように取り組んでいきたい。

また、前年度の残された課題をクリアし、内容の充実を図り、患者・家族に満足してもらえる看護が提供できるように努めていきたい。

目標 入院から退院まで責任もった看護が提供できる

- ①患者とともに、具体的に看護計画を立案することができる
- ②看護計画にそった記録・ケアができる
- ③1週間毎に患者とともに計画・修正ができる
- ④他部署との連携を図りながら、退院指導が行える

上記の目標をかかげ受け持ち看護師の意識をさらに高め、スタッフ全員で取り組んでいく。前年度に引き続きグループ毎に活動を行い、グループのアイディアや、協力性の効果も期待する。



回復期リハビリテーション病棟

当院で回復期リハビリテーション病棟が設立し2年が経過している。病床稼働率99%、在宅復帰率83.5%、2008年7月から2009年4月末まで入院患者245名、看護必要度判定にて、重症者合計50名、重症者割合24.6%、重症改善者合計22名、重症改善者割合44%の実績をあげ、各スタッフ（ナース・看護助手・PT・OT・ST）が連携し、患者さん、家族に対する日々の努力がうかがえる。2009年度は、スタッフ増員に伴い、回復期リハ病棟のケア10項目宣言について再度振り返り、確実に実践できているか評価し病棟の指針を固めたい。

1. スタッフ構成

1) スタッフ構成：

看護師長1名、副看護師長1名、看護師4名、準看護師3名
看護助手7名（内学生1名）

2) 勤務体制：

3交代制 日勤 8：30～17：30

準夜勤 16：30～ 1：00 深夜勤 0：00～ 9：00 各2名

早出 6：00～10：00 遅出 17：30～21：30 各1名

固定チームナーシングと受け持ち制の併用

PT 3名 ・ OT 3名 ・ ST 1名

日勤 8：30～17：30

早出 7：00～16：00

2. 2008年度の取り組みとその成果

年間目標「入院生活の中でリハビリ訓練が出来るようスタッフ間の情報を共有し、ADLの向上を図る」を掲げ、ホワイトボードを活用し、情報を共有する。FIMをリハスタッフと相談し正しく確実にチェックする。などの2点を具体策にあげ取り組んだ。ホワイトボードの活用は、スタッフ全員が患者のベッドサイドで確認しながら統一したケアを行った。また、毎週金曜日、カンファレンスで目標設定をしたことで、より情報の共有がはかれた。さらに、FIMのチェックは、最初は70%であったが、スタッフの全体の意識化が高まり、2月末には100%となった。

11月から、早朝の更衣訓練を開始し、入浴を週2回から3回へ改善、環境整備の徹底、リーダ業務の改訂、看護助手の業務改善を行った。12月1月には、業務改善（回復期用オリエンテーション板作成・申し送りの改訂・サマリーの記入など）を行いまた、2月には、食事を食堂に誘導し、経口摂取に取り組んだ。その結果、栄養科より残飯が少なくなったと言う評価をいただいた。3月は、リハスケジュールボードを開始し、全員が個々のリハビリの時間を把握することができ、業務が円滑に行えるようになった。患者さん・ご家族のリハビリに対する意欲向上と、スタッフの意識改革が図れ、リハビリ強化につながった。2009年度も業務を見直ししながら、患者さん中心とした、個々のケアの充実を図りたい。



3. 2009年度の重点目標

病棟看護目標：看護計画を見直し、リハ計画に反映する。

- 具体策：① 入院担当者は、初期計画を立てる。受け持ちナースは、計画を完成させる。週に1回プリセプター・師長は、カルテをチェックし、未完成の場合は、記録監査の棒を差し込む。受け持ちナースは修正し、棒を除去する。
- 師長は、毎週（土）チェックし、毎月統計をとる
- ② パスを活用し、充実したケアの提供をはかる。



手術室

1. 概要

当院は2つの手術室があり、バイオクリーンルームと一般手術室がある。
主に脊椎、人工膝関節、人工骨頭、その他の骨折などの手術を年間 600～700 例を行っている。
1つの手術に、執刀医、介助医師、麻酔科医、手洗い看護師、外回り看護師といったチームを組んで行われている。

2. スタッフ構成

麻酔科医 1 名 副看護師長 1 名 准看護師 1 名 他 病棟より傾斜配置
夜間休日待機

3. 2008年度の取り組みとその成果

手術前、手術後の患者訪問を行い手術室看護の充実を図る

方法 術前訪問

- ① 医師が手術説明を行った後、手術当日担当看護師が手術、麻酔についての説明確認を行い理解を深める。
- ② コミュニケーションを取りながら手術に対する不安を和らげる。
- ③ チェック表を参照し情報収集を行う。

術中

- ① 環境整備
- ② 音楽などで緊張をほぐす
- ③ 入室前に自分が担当することを伝え不安を和らげる

成果

- ① 手術前訪問は予定手術に関しては当日入院以外ほとんどの患者に行えた。チェック表を参照し、コミュニケーションをとりながら不安の緩和に努めることが出来た。
- ② 手術室入室から行動をとる前に患者に声をかけることで不安の緩和がはかれた。
- ③ 手術後患者訪問はチェック表等がなく確実には行えていなかった。

オペ件数

全麻 394 例

腰麻 119 例

局麻 231 例

伝達 3 例

硬膜外 6 例

全+硬膜 26 例

腰+硬膜 1 例

科別オペ件数

整形外科 623 件

外科 3 件

形成 126 件

その他 1 件（ペースメーカー）



【整形外科手術件数】 623 件

内外来 93 件

入院 530 件

外来内訳

腱鞘切開術 42 件

手根管手術 14 件

骨接合術(ピンニング) 17 件

その他 抜釘・異物除去術等

入院内訳

上肢

肩関節形成術 20 件

骨接合術 鎖骨 6 件

肘関節形成 1 件

骨接合術 肘 2 件

骨接合術 上腕 7 件

骨接合術 前腕 26 件

脊椎

椎間板摘出術 41 件

椎弓形成術 42 件

後方固定術 29 件

下肢

骨接合術 大腿 27 件

人工骨頭挿入術 15 件

人工股関節置換術 14 件

人工膝関節置換術 65 件

膝関節鏡 72 件

前十字靱帯再建術 11 件

骨接合術 膝蓋骨 3 件

骨接合術 下腿 9 件

骨接合術 足 4 件

抜釘 鎖骨 6 件 上腕 2 件 前腕 2 件

大腿 3 件 膝蓋骨 3 件 下腿 11 件 足 6 件

その他 103 件

4. 2009年度の重点目標

術前訪問は予定手術のほとんどの患者に行うことが出来た。

今年度はオペ件数が増加したため入退室時の患者誤認に注意し、より安全で、充実した看護を目指す

- 目標 ① 入退室の際患者誤認と手術部位の確認を行い、安全に努める
② 術前術後訪問の継続





外来

1. 概要

当病院は、診療科 9 科を置き、理念である「医療・介護を通じ、生活の質の向上に努める」をモットーに専門性を重視した医療を提供している。また、地域の病院と提携し、回復期リハビリテーションにも力を入れている。内科では、内視鏡検査や、禁煙外来、3 ヶ月に一度糖尿病相談会を開催している。2008 年 2 月には、第 18 回目が開催された。整形外科では、脊椎や・膝関節の疾患の患者が増えている。

また、介護支援ステーションの補助的役割も担っている。私たち、外来看護師は、” 病院の顔 “として、やさしさと思いやりの気持ちで看護している。

2. スタッフ構成

看護師長 1 名 看護師 4 名 (パート 2 名) 准看護師 2 名 (パート)
内視鏡業務を含む

3. 2008 年度の取り組みとその成果

カンファレンスを行い記録の充実を図る。またインシデントを元に、業務改善やマニュアルの作成改訂 教育を行い、患者の不安を和らげる、相談できる外来を目指した。

また、①個々の訴えに対し、耳を傾け個別対応・個別指導などの継続看護を行う
(記録の充実・カンファレンス)

②各部署との連携を密にし、業務の円滑化を図る。

③スタッフ間・患者・家族とのコミュニケーションがとれ、良い信頼関係ができる。

等を重点目標に掲げ取り組んできた。毎日の業務に追われ、個別指導などが十分に出来ていないが、今年度の目標にも挙げて継続看護に力を入れて行きたい。

4. 2009 年度の重点目標

- 1 <継続看護> 看護サマリーの今後の問題について観察 記録が出来る。
- 2 各自の役割分担を明確にし、役割に責任を持つ。

業務改善を進めながら、5 S 運動に取り組んで行きたい。



訪問看護ステーション・ふくろう

1. 概要

地域医療の一環として、療養生活支援の専門家である看護師が、人々が望む場所で看護を実施することにより、在宅療養の充実を図ることを目的に、2006年8月1日より指定訪問看護ステーションが認可され、訪問看護業務を行っている。

リハビリテーションも訪問看護ステーションよりリハビリの専門職としてサービス提供を行っている。

2. スタッフ構成

スタッフ

管理者と訪問看護師 2.5人にて構成されている。

勤務体制

(月曜日から金曜日) 午前8時30分～17時30分まで

(土曜日) 午前8時30分～12時30分まで

※ 利用者さんの状況では休日に訪問もあり

訪問リハビリ 兼任 PT 1人

3. 2008年度の取り組みとその成果

目 標

- ①モニタリングを行い日々のケアの内容について見直しを行う。
- ②他の事業者との連携を行い、情報の共有を図る。

成 果

日々のケースカンファと週1回のケース検討を行い訪問看護サービスの提供について見直しを行い、職員間の情報の共有を図った。また連携機関には1カ月1回の報告書の提供を行い、状況の変化に対してはタイムリー連携先との情報交換を行った。

2008年4月～12月までの訪問看護サービス提供件数について

延べ件数 835件 月平均 92.7件

2008年4月～11月までの訪問リハビリの件数について

延べ件数 487件 月平均 60.9件

訪問看護ステーションにおける満足度調査

- ・2008年7月実施 現在行っているサービスの見直しと、より質の高い訪問看護ステーションの運営に役立てるために実施。
- ・総合的な満足度としては、支持率80%であったが、業務体制や訪問看護サービスの時間の見直しについての要請があり、業務改善を行う必要がある。



訪問看護サービス提供内容

- ・フィジカルアセスメント
- ・療養生活への援助、療養生活自立支援
環境整備、食事、排泄、入浴、衣生活、移動、社会とのつながり、清拭、スキンケア、服薬管理、運動、介護指導、看護指導
- ・急変時の対応
- ・在宅の輸液管理、筋肉注射・静脈注射・点滴
- ・認知症の看護・介護指導
- ・リハビリテーション看護
- ・呼吸管理 ネブライザー・吸引・在宅酸素
- ・連携業務 各サービス事業所・家族・医療機関・情報交換・情報提供
- ・相談対応 病状・受診相談 等

当院訪問看護の特徴

当院の退院支援に基づく在宅への継続看護となっている。退院時の移行期の体調管理、家族・本人へのセルフ看護、介護の指導、サービス支援の移行期の調整的役割を果たしている。

在宅生活の継続を積極的に支援している。

4. まとめ

地域に根付く医療と看護を目指して訪問看護のサービスを提供してきたが、院内業務の再編に伴い、訪問リハビリは2008年の11月、訪問看護は12月で業務休止となっている。今後業務の再開が計画された場合に備え、地域医療における訪問サービスのありかたについては、引き続き検討していきたい。



居宅介護支援事業

1. 概要

介護保険の基本理念は高齢者の自己決定権の尊重、自分らしい生活の継続及び自立支援を推進することである。

居宅介護支援事業は、要介護状態になった場合でも、その利用者が可能な限りその居宅において、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち、利用者の心身の状況や環境に応じて、利用者の選択に基づき適切な保険医療サービスや福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供、調整し、その有する能力に応じ自立した生活を営むことができるように支援援助を提供している。介護支援専門員として、質の良いサービスプランの提供ができるように業務を行っている。

2. スタッフ構成・勤務態勢

2008年度勤務体制

	勤務時間	資格	勤務形態
管理者	8：30～17：30	医師	常勤（兼）
介護支援専門員	8：30～17：30	保健師	常勤（兼）
		社会福祉士	常勤（兼）
		看護師	常勤（兼）

3. 2008年度の取り組みとその成果

地域医療・看護支援センターの目標

- ① モニタリングの充実を図る。
- ② 定期訪問を行い、アセスメントを行う。

アセスメント、居宅サービス計画の作成、サービスの提供調整、モニタリング、居宅サービス計画の見直しを行った。月1回の利用者宅訪問、サービス事業者との毎月の情報交換を行った。

2008年度の居宅サービス計画数・相談件数

居宅サービス計画数	285 件	月平均	31.6 件
居宅介護支援相談件数	1411 件	月平均	157 件

居宅介護支援事業所満足度調査の実施

2008年8月実施し現行サービスの見直しを行った。総合的な満足度は支持率90%であったが、介護保険サービス制度の説明が分かりにくいとの指摘があったため、患者の立場に立った説明を心がけるよう業務を改善した。

4. 総括

自分らしい生活の継続や、自立支援を目指して、介護支援業務を行ってきたが、院内業務の再編により2008年12月で業務休止となっている。今後業務の再開が計画された場合に備え、地域とのサービス提供事業者や施設との連携を行う。合わせて、地域住民、患者の生活支援相談には引き続き対応していきたい。



医療福祉相談部

1. 概要

医療・介護・福祉の制度と社会資源を活用し、外来・入院患者さんの抱える生活不安の軽減を支援する。

2. スタッフ構成

医療ソーシャルワーカー2名

(外来・一般・亜急性期病床担当1名、回復期担当1名)

3. 2008年度の取り組みとその成果

入院相談

入院相談窓口として急性期病院からの転院調整を行った他、介護施設、在宅からの入院相談、回復期病棟、回復期対象疾患外のリハビリ目的入院相談に対応した。

退院支援

診療計画の中で円滑に退院ができるよう、介護保険申請、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターの紹介・連携、在宅支援カンファレンスの設定、家屋調査、福祉用具の手配、介護施設・療養病床への入所支援を行った。

受診相談

他病院受診の際の予約や、移動手段の手配を行なった他、日常的に連携しているケアマネージャーや介護サービス事業所、介護保険施設等から、利用者の様態悪化や急変があった場合などに、スムーズな受診が図れるよう、院内調整を行った。

介護・福祉相談

外来、入院患者さんからの、介護保険や高齢者福祉制度、障害者福祉制度の利用に関する問い合わせに対応した。

医療・介護連携

外来、病棟、医事課からの、他機関への問い合わせや情報収集に対応した。

前方連携、後方連携のネットワークを維持するため、病院訪問（年3回実施）を行った他、医療連携実務者会議へ参加し、他院連携室との顔の見える連携を心がけた。

後方連携では居宅介護支援事業所、地域包括支援センター主催のセミナーへの参加や、独自アンケートの実施を通して、医療・介護連携における問題点の把握に努めた。



4. 総括

2008 度はのべ 5865 件の相談対応を行った。今年度相談部が関わって退院した患者数はおよそ 484 名（亜急性 247 名、回復期 237 名 ※一般病床除く）であった。回復期病棟退院患者においては、施設待機者も含め入棟期限内で円滑に退院支援を行なうことができた（在宅復帰率 83.5%）。

急性期病院の担当者とは顔の見える連携を心がけ、信頼関係に基づいたスムーズな入退院が行なえるよう、病院訪問、会合への参加を通してネットワークの強化に取り組んだ。本年度、回復期へは 16 病院より 113 名の患者紹介があった。

特に今年度は後方連携に力を入れ、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を円滑に図るため、独自に医療と介護の連携に関するアンケートも実施した。その他、地域の居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの主催する医療と介護の連携に関するセミナーにもパネリストとして出席するなど連携強化に取り組んだ。

次年度も引き続き、患者さんの生活不安を軽減し、安心して医療を受け、在宅生活を送れるよう対応していきたい。



事務部

1. 概要

事務部は、財務管理、労務管理、施設管理、経営企画、用度・システム管理担当より構成され、正職員 5 名で主として以下の業務を行っている。

◆財務管理

- ・ 予算編成及び決算報告に関すること
- ・ 現金及び有価証券の管理に関すること
- ・ 給与計算及び税務に関すること
- ・ 会計書類の作成及び諸支払いに関すること
- ・ 経営分析に関すること

◆労務管理

- ・ 職員の採用、退職に関すること
- ・ 人員標準数の管理に関すること
- ・ 職員の福利厚生に関すること
- ・ 研修、出張に関すること
- ・ 就業規則の整備、管理に関すること
- ・ 人事考課に関すること

◆施設管理

- ・ 建物の保全、管理に関すること
- ・ 機械、設備、電気、ガス等の保全、管理に関すること
- ・ 防火訓練、危機管理に関すること
- ・ 清掃、景観の管理に関すること

◆経営企画

- ・ 病院運営会議、連絡調整会議に関すること
- ・ 施設基準の届出及び調査研究に関すること
- ・ 病院行事及び広報に関すること
- ・ 「ふくろうの会」、「ボランティア会」に関すること
- ・ 監査に関すること

◆用度・システム管理

- ・機器、医療材料、薬剤、消耗品等の購入に関すること
- ・院内 SPD システムの管理に関すること
- ・オーダーリングシステムの管理、運営に関すること
- ・院内グループウェアの管理に関すること
- ・インターネット関連の管理に関すること
- ・院内コンピュータ全般及び PHS 等通信機器の管理に関すること

2. 2008年度の取り組みとその成果

①業務の見直しと役割分担の再検討

2009年度の人事を考慮し、部署内の業務及び担当者の見直し、引継ぎ等を行った。

②人事考課制度の再構築

経営コンサルタントにも検討を依頼し、人事制度の具体的な見直しに着手した。

③経費の見直しと節減対策

薬剤の購入について検討し、仕入業者の絞り込みと価格の抑制を行った。医療機器、診療材料等は逆に仕入業者数を増やす方向で検討し、緊張感のある購入環境に努めた。

3. 2009年度の重点目標

①人事制度の再構築と経費対策を引き続き努力する。

②業務改善に向けた提案制度の実施

「グッドアイデアシート」の提出制度を設け、業務改善に対する意識の養成を行う。

③DPC 対象病院への移行を見据えた準備、研究を行う。



医事課

1. 概要

受付業務、総合案内、電話交換、診療行為入力、会計業務、入退院業務、病棟業務、医事相談、診療報酬請求業務、未収金請求業務、集計(医事統計資料作成)

2. スタッフ構成

職員 6 人 (パート 1 名)

3. 2008年度の取り組みとその成果

未収金管理システム起動、レセプトオンライン請求

4. 2009年度の重点目標

患者さんに対する接遇 を重視、診療報酬業務の体制整備、医事課業務改善、未収金業務の強化整備

5. 実習の受け入れと学会・研修会の参加実績

三幸医療カレッジ、労災保険研修会

ちょっと一息②

正面駐車場 今昔

1997年当時



1999年当時



現在





委員会

医療事故防止委員会

1. 設置目的

医療安全管理に関する事項、職員への医療安全教育に関する事項、インシデント・アクシデントの統計分析報告、最新医療事故対策研究、医療訴訟に関する事項

2. 委員構成

委員長 1 名、 副委員長 3 名、 看護部長、 事務長、各部署長、事務部の若干名

3. 2008 年度の活動報告

「安全管理意識の定着」

① 一人一月一インシデント報告ができる。

- ・年間報告総件数は1570件（職員数116名）で目標は達成できた。
- ・インシデント報告書が紙媒体からPC書き込み報告様式へと佐藤委員の協力で容易にタイムリーに報告ができるようになり報告数がUPした。
- ・毎月の報告件数を「インシデント報告目標達成表」のタイトルで表にして医局・職員食堂に掲示し啓蒙ができた。
- ・各部署の委員さんの協力により飛躍的に報告数が伸びた部署として2F病棟があげられる。
- ・年度末には報告件数最多（職員数に対する報告割合）の検査科を表彰した。
- ・問題点として内容がわかりづらいものが有り書き方の訓練をする必要を感じた。

② 安全マニュアルの評価

今年度は十分にできなかったので来年度の課題としたい。

③ 各部署会議では安全管理に関する議題を取り上げ安全管理室長が同席する。

看護部では安全に関する議題は取り上げられたが他部署会議への参加は今後の課題である。

④ 看護部では転倒転落の低減に努める

アセスメント並びに家族への説明と同意に配慮してきた。

安全教育

年2回行った。

1回目 6月30日（金）18:30～19:30 講演会「認知症患者とどう向き合うか」

講師 わかば台クリニック 山内 千代先生

地域の福祉関係職場にも参加を呼びかけ有意義な講演会となった。今後も認知症については抑制問題との絡みもあり来年度も講演会を開催したい。

2回目 11月25日と27日 18:00～19:00

GワークによるKYTと伝達講習

伝達講習の内容

- ・医療安全に関するワークショップ

厚労省九州厚生局主催

・管理者のためのリスクマネジメント

看護協会主催

・「危険予知トレーニングを知ろう」

テルモメディカル 세미나

Gワークは5名1組で2枚のイラストを使い行った。

KYTには基礎知識に裏打ちされた危険察知能力向上の効果が期待できるので各部署で日常的に小集団で短時間に行われることが望ましい。

その他の教育

ノロウイルス対策として

吐物・下痢便の処理に関するデモンストレーションを行った。

4. 2009年度の重点目標

「職員の安全管理意識を高め事故防止に努める」

活動目標

・一人一月一インシデント報告ができるは継続

・患者誤認防止策を実行する。

患者さん自ら名乗っていただき確認する。

リストバンドで確認する。

家族、同僚と確認する。

・転倒転落防止につとめる。

・5S運動に取り組む。

・「安全管理員」の役割の強化

・病院機能評価機構よりの安全情報を月朝礼で情報内容関係部署長が発表

・医局への安全情報は院長が選択し回覧する。(安全管理室が準備)

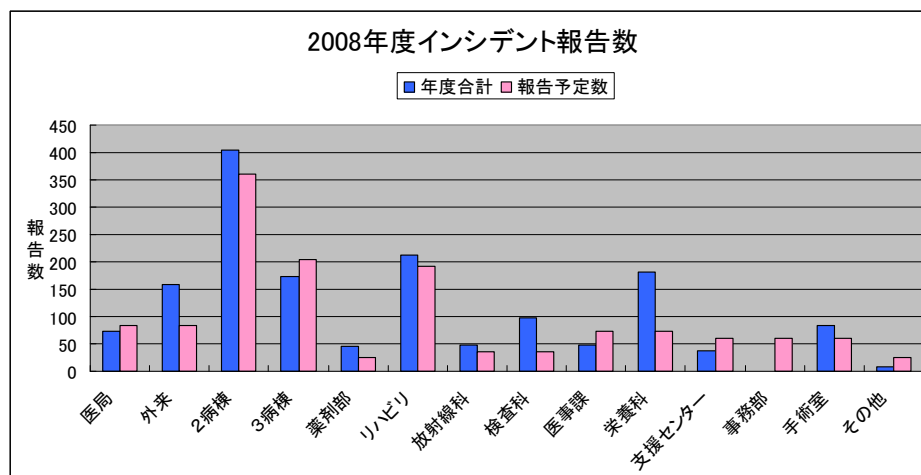
・同姓患者名は全職員が順番で発表する。

5. 2008年度の委員会開催日

定例会として月1回開催した。

4/15 5/13 6/12 7/15 8/14 6/16 10/14 11/14 12/12 1/23 2/13 3/13

インシデント報告集計表（2008年4月1日～2009年3月31日）





6. まとめ

本年度の目標である「安全管理意識の定着」に関してはインシデント報告が年間を通して1570件報告されていることを見る限り安全管理意識が定着したと評価できる。只全職員が一人残らずインシデント報告をしているかは判明しない。したがって今後は項目をきめて集めるなどの工夫をする必要がある。



医療ガス安全委員会

1. 設置目的

定期的継続して医療ガスの取り扱いを勉強することにより、初歩的ミス、人為的ミスを院全体として防ぐ事を目的とする

2. 委員構成

委員長、副委員長、委員 3名

3. 2008年度の活動報告

年間活動計画策定

1. 医療ガスに関する概要の説明
2. 医療ガスに関する法令の説明
3. 医療ガス（各種）の特徴、性質等の説明
4. 実際に起きた事故例の紹介
5. 医療ガス設備、アウトレット取り扱い上留意すべき事を DVD を見ながら説明
6. 医療ガス、高圧酸素と酸素ビンレギュレーターの手取り扱ひを説明する

4. 2009年度の重点目標

医療ガスの性質と取り扱いを再度説明し特に新入職員を教育したい。

ストレッチャ設置機器、アウトレットの破損しやすい箇所を注意するよう教育する。

高圧ガスの使用前、中、後の基本的操作を何回でも教育する。

5. 2008年度の委員会開催日

4/15 7/15 10/14 1/23

6. まとめ

安全に無駄なく誰でも安心して使用できるように、教育します。



感染対策委員会

1. 設置目的

院内感染に関する事項 感染患者の状況把握と対策に関する事項

感染に対する研究教育に関する事項 感染者の統計処理、感染性廃棄物処理に関する事項

2. 委員構成

委員長、副委員長、委員 20名

3. 2008年度の活動報告

目標 一人ひとりの感染対策意識の定着

1. 早朝カンファレンスにて 感染患者報告を行い全職員へ周知させ感染意識を高める。

2. オーダリング 掲示板にて毎月活動内容を全職員に周知する。

3. 勉強会

新型インフルエンザについて 外部講師 10月17日 出席率 61.5%

消毒剤の特徴と取り扱いについて 外部講師 3月6日 出席率 56.1%

4. 職員教育

①ノロウイルス感染患者対策 マニュアルの作成し実演講習を行う。

10月25・27日 出席率 100%

②新人教育 (入社時随時)

5. 職員の感染予防対策

①インフルエンザ予防接種 全職員 11月17日～11月30日

感染予防対策 1階フロアー・リハビリ・検査室 2月中マスク着用とする。

面会患者に対し 掲示板告知 マスク着用

病室 加湿器使用

②新人職員 B型ワクチンの接種

6. 研修参加 6月感染セミナー 7月感染管理

7. 針刺し事故 MRSA発生率統計報告

以上、活動報告とする。

4. 2009年度の重点目標

感染対策マニュアルを実践し院内感染の防止を図る。

マニュアルを見直しエビデンスに基づいた使えるマニュアルにする。

スタンダードプリコーションを徹底する。

5. 2008年度の委員会開催日

毎月 第2火曜日 15:00～15:30



6. まとめ

毎朝のカンファレンスで感染患者の報告を行い職員全員で情報の共有ができています。

さらに院内研修にてノロウイルス、インフルエンザの勉強会を行い感染防止に対する意識を高めた。

感染経路別マニュアルを見直しエビデンスに基づいた使えるマニュアルを作成し

スタンダードプリコーションを徹底し感染防止に対する意識を持つことが必要と考え、今年度の目標を決定した。

今後さらに職員の感染対策に関する知識を深め感染防止に努めて行きたい。



情報管理委員会

1. 設置目的

診療録等の管理に関する事項 診療録の廃棄に関する事項 診療録の貸出に関する事項
診療録の開示に関する事項

2. 委員構成

委員長 西田医事課長、副委員長 佐藤主任、委員 7名

3. 2008年度の活動報告

毎月の委員会開催時に診療録の監査内容の報告を行った。委員会の中でも監査を行い問題点について協議した。添付する文書の劣化に対しても注意・指導を行った。

カルテの貸出に対しても期限越えることなく回収できた。またアリバイ管理に関しても徹底できた。

年末には院内のパソコンの清掃を行った。

カルテ仕切りの劣化が目立った為クリアファイルにて新しく作成した。作成に伴いカルテに綴る文書の整理を行い各部署に周知した。

今年度の診療録開示請求は0件であった。

4. 2009年度重点目標

診療録監査の徹底

情報管理規程の見直し検討

5. 2008年度の委員会開催日

4/21 5/26 6/23 7/28 8/26 9/22 10/27 11/25 12/22 1/19 2/16 3/23

6. まとめ

本委員会の活動により、カルテに対する職員の意識は高まってきたのではないかと考える。引き続き活動の継続と書院の意識の向上を目標に行って行きたいと考える。

また院内情報システムのセキュリティー対策なども個人情報保護情報委員会・IT委員会と共同で行いたいと考える。



IT 委員会

1. 設置目的

院内情報システムの管理 運用方法の検討と決定
システムトラブルの対応 システム保守

2. 委員構成

委員長 佐藤主任、副委員長 首藤、委員 11 名

3. 2008 年度の活動報告

サブシステムの開発と導入を行った。

導入したシステム一覧

文書管理システム(情報提供書・お返事・急性期入院診療計画書・亜急性期入院診療計画書・診断書)

院内報告システム(入退院患者数・外来患者数等各種統計出力が可能)

患者待ち時間調査システム(外来診療時の行動別に待ち時間を調査・分析するシステム)

情報システムは年間を通じて診療に影響するシステムトラブルは 0 件であり安定稼働している状況である

オーダーリングシステムのマスタ更新作業を実施 09 年 3 月

4. 2009 年度の重点目標

サブシステムの導入計画 各部門別のシステムを構築予定 手術・内視鏡等

定期的なオーダーリングのマスタ更新を実施予定

各部門別のハード点検

院内ネットワークの保守

5. 2008 年度の委員会開催日

4/21 5/26 6/23 7/28 8/26 9/22 10/27 11/25 12/22 1/19 2/16 3/23

6. まとめ

オーダーリングシステムの導入も一段落しサブシステムの導入強化を行った。

上記導入したシステムは現在安定稼働しているが年数が経過するとハードの故障やエラーの発生が考えられる為来年度は保守点検を重点的に行いたいと考える。

また新規開発も並行して行い IT 化を通じて職員の事務的作業の軽減に努めたいと思う。



倫理・個人情報保護委員会

1. 設置目的

倫理、個人情報基本方針による

2. 委員構成

委員長、副委員長、委員 11名

3. 2008年度の活動報告

☆毎月1回の倫理個人情報委員会を行う(個人情報に関する事、抑制に関する事、倫理に関する事)

☆倫理に関する勉強会開催

☆人格と尊厳を守る(木下院長先生講演 8月29日)

4. 2009年度の重点目標

個人情報保護法についてのセキュリティー管理の体制作りと強化

個人情報関連の問題発生に対する迅速な対応に対するマニュアル整備

5. 2008年度の委員会開催日

4/21 5/26 6/23 7/28 8/26 9/22 10/27 11/26 12/22 1/19 2/16 3/24

6. まとめ

倫理に関しては、研修会を開催し、個人情報では、定例の委員会にて、院内のセキュリティー管理の強化、問題発生時の迅速な対応をとるためのマニュアル整備を行いたいと思います。今後は、個人情報の保護、法規等について職員各自の意識の向上が高められるよう倫理と同様に研修会等を企画したいと思います。



褥瘡・栄養対策委員会

1. 設置目的

明野中央病院に於ける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効果的な推進を図る。

2. 委員構成

委員長	佐々木（理学療法士）	
副委員長	玉井（看護師）	
委員	木下院長（医師）	園田（看護師）
	中村副院長（医師）	前原（看護師）
	西宮 Dr.（医師）	畑（看護師）
	宮崎 Dr.（医師）	平川（看護師）
	中村（管理栄養士）	溝部（看護師）
	尾中（薬剤師）	横田（相談員）
	村上（作業療法士）	小川（看護助手）

3. 2008年度の活動報告

- ・週1回（毎週火曜日）褥瘡回診と月1回委員会を実施。
- ・褥瘡回診では、褥瘡患者の評価及び治療、対策の検討を実施。
- ・褥瘡予防用具の管理及び効果的な使用状況の検討を実施。
- ・褥瘡対策マニュアルの見直し
- ・2008年度褥瘡発生状況の把握 * 褥瘡発生状況－資料添付

4. 2009年度重点目標

- ・院内での褥瘡発生件数10を目指す。
- ・褥瘡予防用具の効果的な使用を図る。

5. 2008年度の委員会開催日

- ・2008年4月15日（火） ・2008年10月21日（火）
- ・2008年5月20日（火） ・2008年11月18日（火）
- ・2008年6月17日（火） ・2008年12月9日（火）
- ・2008年7月15日（火） ・2009年1月20日（月）
- ・2008年8月19日（火） ・2009年2月24日（火）
- ・2008年9月16日（火） ・2009年3月17日（火）

2008年度褥瘡発生状況

○褥瘡発生者数 : 33名

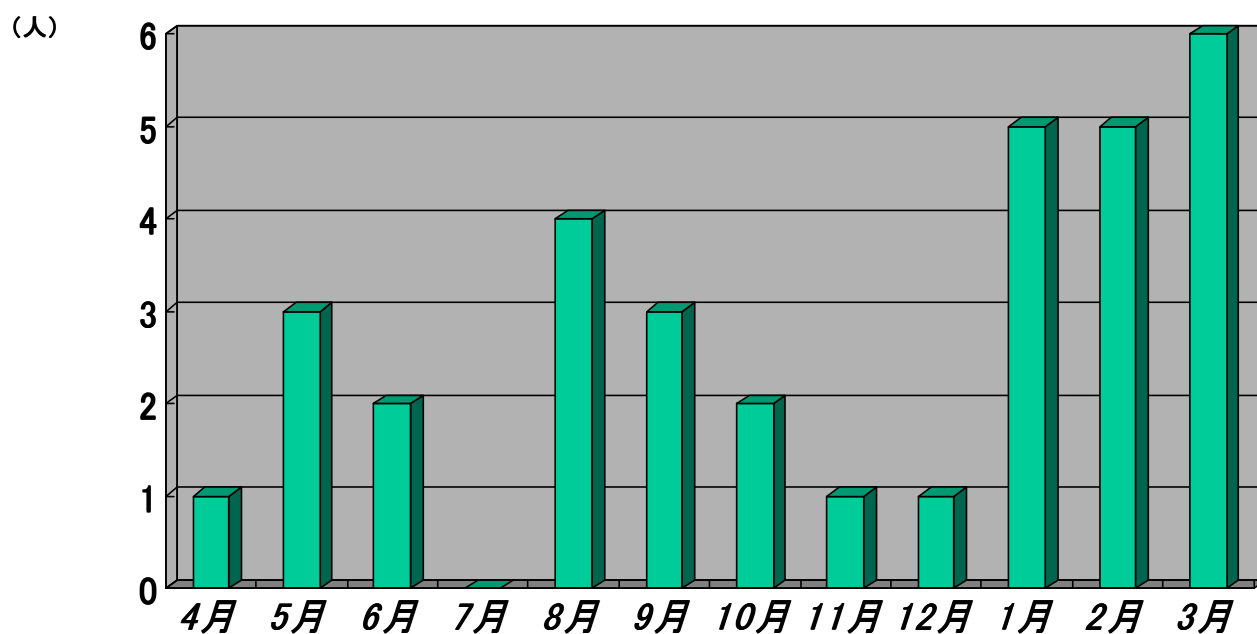
○入院時の褥瘡の有無

┌
入院時・無 : 17名 (当院発生)

入院時・有 : 16名 (持ち込み)

○褥瘡が治癒した患者数 : 12名

【2008年度月別褥瘡発生者】



2008年度 褥瘡治癒率 : 36.4%

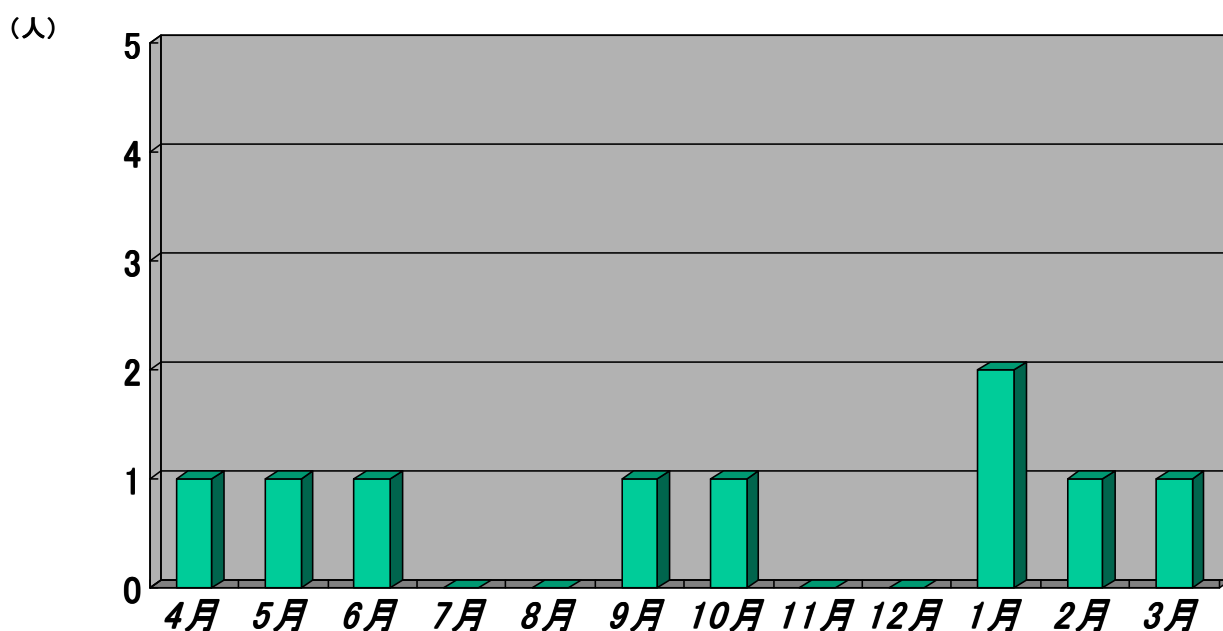


2008年度褥瘡発生状況(当院発生患者)

○褥瘡発生者数 : 17名

○褥瘡が治癒した患者数 : 9名

【2008年度月別褥瘡発生者】



2008年度 褥瘡治癒率 : 52.9%

褥瘡対策委員会

6. まとめ

委員会の活動として、週1回の褥瘡回診と毎月の委員会を開催し、褥瘡発生状況の把握、治療の推進を実施することが出来た。

2008年度の褥瘡発生者は33名、治癒した患者数は12名、治癒率は36.4%であった。

発生者の内訳は、当院発生者が17名、持ち込みが16名であり、2007年度と比較し発生者数は3名減少したが、治癒率は、58.3%から36.4%に低下がみられた。

褥瘡発生時の連絡体制及び褥瘡回診により評価・治療・発生状況の把握が適切に実施された。しかし発生者は昨年度と変わらない状態であり、今後の原因分析と予防対策の検討が必要である。



労働安全衛生委員会

1. 設置目的

職員の安全管理及び健康管理に関する対策を討議・検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

2. 委員構成

委員長 高山事務長、副委員長 長島師長、委員 12名

3. 2008年度の活動報告

月1回委員会の開催を行い、以下の事項の調査及び審議を行う。

○年2回の職員健康診断の実施

- ・受診率100%を目標に各部署へ呼びかけを行う。
未受診者がいないか調査を行い、受診していない職員には、各部署長が催促する。
- ・健康診断終了後、各個人、検査部でデータを受け取り、精密検査の必要がある人は診察を勧める。
- ・2008年度よりBMI、腹囲、LDLコレステロールの追加項目があるため測定もれがないように注意する。

○3ヶ月に1度職場内のラウンド

- ・訪問部署と訪問者を委員内で決め、その職場をラウンドし、衛生及び危険な場所などないか調査する。写真にて委員会で検討する。
また、部署長や職員からの意見も聞き取る。
- ・翌月の委員会で討議し委員内で取り組むことができる事項については対処し、幹部への報告が必要な場合は、診療管理会議で報告する。

○年2回の火災訓練の実施（5月昼間想定、11月夜間想定）

- ・緊急連絡網のテスト

4. 2009年度の重点目標

○年2回の防災訓練及び職員連絡網による緊急連絡テストを行い、防災意識を高める。

○2ヶ月毎の職場訪問を行い、安全な職場作りに努める。

5. 2008年度の委員会開催日

2008年度	4/4	5/2	6/6	7/4	8/1	9/5	10/3	11/14	12/12
2009年度	1/9	2/13	3/6						



6. まとめ

毎年、年2回の職員検診を行っているが、今年度の受診率はほぼ100%であった。

3ヶ月に1回のラウンドを行い、各職場の危険と思われる場所を写真に撮り検討し対策をたて改善してきた。

また、年2回の防災訓練を行うことにより防災意識を高めている。

しかし、職員連絡網による緊急連絡テストが確実に行えなかったため、職員一人一人が緊急連絡網の重要性を考え、行えるよう努めていきたい。



広報委員会

1. 設置目的

病院広報誌の編集・発行、院内掲示板の管理、病院ホームページの作成・管理等、広報活動全般に関する検討及び提案を行う。

2. 委員構成

委員長、副委員長、他 5 名

3. 2008年度活動報告

- ・ 広報誌発行（ふくろう便）
6月・10月・1月に発行
市内の医療機関・介護施設を中心に約300件郵送
- ・ ホームページ管理
トピックスとして年間47回の更新
その他掲載情報の更新や新規追加
- ・ 院内掲示板の整理・管理業務
- ・ 患者向け書籍の整理・管理

4. 2009年度の重点目標

ホームページデザイン及び情報のリニューアル

5. 2008年度の委員会開催日（19回）

4/23 5/7 5/21 6/4 7/2 7/16 8/3 8/17 9/3 9/17 10/15 11/5 11/19 12/17 1/7 1/21
2/4 2/18 3/4

6. まとめ

広報委員会は、ホームページ、広報誌、院内掲示板の運営を中心に取り組んでいる。

当院の情報を開示、発信する手段として上記以外にも有意義な方法があれば取り組んでいきたいと考えている。

教育委員会と共催での患者健康教室なども考えられるが、今後の検討課題である。

明野地域の健康関連情報発信基地を目指して、今後ともいろいろな挑戦を試みたい。



サービス向上委員会

1. 設置目的

病院の基本理念に沿って患者サービスの向上に関する事項・業務改善・効率化に関する事項及び環境美化・患者、職員の満足度・職員の服装マナーに関する事項を機能とする委員会である。

2. 委員構成

委員長 1 名・副委員長 1 名・委員 10 名（事務局 1 名・看護部 3 名・医療技術職 2 名
看護助手 1 名・医事課 1 名・支援 1 名・栄養科 1 名）

3. 2008 年度の活動報告

・「挨拶を呼びかける。コミュニケーション技術を身につける（目を見る・微笑む・あいづちをうつ）」を活動目標として下記の活動を行った。

①患者さんのご意見箱の意見を収集し、改善・指導・周知を行った。（年間 24 件）

朝礼・掲示板で周知した。

②職員意見箱の意見を収集し、改善・指導・周知を行った。（年間 1 件）

③患者様満足度調査年間 2 回（7 月・12 月）実施し、改善・指導など掲示板・ホームページで周知した。

・ 1 回目 7 月（外来 106 名・病棟 44 名）

・ 2 回目 12 月（外来 101 名・病棟 41 名）

④職員満足度調査を実施し、病院総会で回答・検討会が行われた。

・ 2009 年 2 月実施（74 名）

⑤コミュニケーションのとり方のポスターを作製し、全部署に掲示・周知を行った。

⑥環境チェックシートを委員に配布し、それぞれの部署のチェックを各自行い、委員としての自覚をもった。

⑦清掃の件で検討、清掃業者との見直しを行った。

⑧外来のマイクの検討、音量調節・周知を行う。

⑨誕生日会の継続（お花・カード・昼食時のデザートなど）

⑩リハビリ室の枕カバーの検討・改善

⑪入浴時間・入浴日の検討・改善

⑫外来待ち時間調査サービス向上委員会が中心に行う（年 2 回 2 月・8 月）

4. 2009 年度の重点目標

・挨拶で仲間づくり ポスターを作製し、周知を行う。

5. 2008 年度の委員会開催日

・ 5 月 16 日・6 月 20 日・7 月 18 日・8 月 15 日・9 月 19 日

・ 10 月 17 日・11 月 21 日・12 月 19 日・1 月 16 日

・ 2 月 20 日・3 月 13 日



6. まとめ

2007年度から開催されている誕生日会は、定着化し、患者さんとの良い人間関係が保たれ、患者さんのサービス向上に多いに貢献している。しかし、去年のクレームの内容は、職員の言葉使い、対応が大半をしめている。そこで、基本となる挨拶を中心とし、良い職場・仲間づくりを目指し、目標を掲げ活動していきたい。また、外来の待ち時間にも着眼し、サービス向上に力をいれていきたい。



教育委員会

1. 設置目的

質の高い医療。介護を提供するために職員のスキルアップを図る。

2. 委員構成

委員長、副委員長、委員 他 13 名

3. 2008 年度の活動報告

- 6 月 30 日 山内先生講演会
- 7 月 26 日 院内研究発表会
- 8 月 26 日 倫理勉強会
- 10 月 17 日 感染勉強会
- 10 月 18 日 健康セミナー 高橋淳氏講演会
- 11 月 25 日 KYT 研修
- 11 月 27 日 KYT 研修
- 2 月 4 日 肺塞栓・倫理勉強会
- 3 月 6 日 感染勉強会

4. 2009 年度重点目標

地域のニーズに答えられる、職員を育てる。

5. 2008 年度の委員会開催日

毎月第 1 金曜日

6. まとめ

2008 年度は重点目標を「実践に役立つ研修会を目指す。」として、若葉台クリニックの山内千代先生をはじめ、多くの院外講師をお迎えして研修会を行ってきた。また全体の研修会の他に看護部でも月 1 回の勉強会を行った。これからはなぜ？どうして？と考える力を育てる研修会を企画していきたいと思う。



図書委員会

1. 設置目的

広く職員が利用し知識や技能の向上に役立てる。

2. 委員構成

委員長、副委員長、委員 2 名

3. 2007 年度の活動報告

毎月第 1 金曜、本の整理・インターネット利用状況などの確認を行っている。

図書室を広く利用していただくために、図書室掲示板に新刊の案内を掲げ、蔵書と分けて毎月雑誌を案内している。

インターネットによる文献検索、大分大学医学部データベースへのアクセスや図書蔵書一覧を閲覧できる。

インターネットの利用件数は 1 ヶ月平均約 200 件、各部署毎月雑誌を購入している。

また、今年度から 1 階、2 階、3 階待合室の本を管理している。

4. 2009 年度の重点目標

職員が図書室を勉強会や研究発表の場として広く活用する。

院内 LAN を通じて新刊の案内を行う。

5. 2008 年度の委員会開催日

毎月 第 1 金曜 16:00～（図書室）

6. まとめ

今年度も広く職員が図書室を利用し、インターネットによる文献検索など知識や技能の向上に役立てることができた。これを来年度も続ける。



クリティカルパス委員会

1. 設置目的

医療の標準化、質の向上と医療業務の効率化を目指した、クリニカルパスの検討。
パスの作成、運用を目的とする。

2. 委員構成

委員長 外科部長 安江和彦
副院長 看護部長 鈴木京子
委員 整形外科部長 工藤修己

薬剤部 リハビリテーション部、放射線科、検査科、栄養科、支援センター、事務、外来、2階病棟、
3階病棟より1名 計13名

3. 2008年度の活動報告

1. 形式を統一した現存のパス及び新規追加のパスの完成
2. 使用状況の把握やバリエーション分析などパス管理
3. 記録と一体化したパスの検討

を目標に、記録が重複しないような用紙の工夫をしながら、腰椎後方手術、人工膝関節、人工骨頭・人工股関節前置換術、関節鏡、ミエロ、のスタッフ用と患者さん用のパスの検討、作成、運用を開始した。毎月第3火曜日の17:00から委員会を開催し、パスの使用状況や、バリエーション発生状況、を報告し、パスの見直しなどのを行っている。

4. 2009年度の重点目標

1. パスの使用状況の把握とバリエーション発生の把握と見直し
2. パスについての知識を深め、より使いやすいパスの工夫

ちょっと一息③

花日記 PartⅡ ～2階ウッドデッキから～

2階のウッドデッキにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。
傍らの「花日記」には多くの書き込みが・・・

“おばあちゃんのお見舞い”

おばあちゃんのお見舞いにきました。
病院にお庭があつてびっくりしてます。
春になったらもっと花でいっぱいになるだろうと楽しみです。



“私が幼い頃”

私が幼い頃、終戦後貧しい時代、母が畑より木綿を取って帰り、農作業の合間に木綿を糸につむいで、パタンパタンと機織をして、家族10人の着物、ズボンやモンペなどを夜の夜中までつくろってくれました。

木綿の花を見ると亡くなった母を思い浮かべます。木綿の花は白とピンクの可憐な花を付けます。



“精一杯咲いている花々”

寒い冬に耐え精一杯咲いている花々。

ボランティアさん達の日々のお手入れで不安な気持ち痛みに耐えることができました。

話しかけてもことばは返って来ませんが、元気で色美しく咲いてくれるだけで元気づけられます。
どの花もそれぞれに美しい。

クリスマスローズさん。初めてお目にかかりました。スマートでやさしい・・・。

何十種類もの花たち ありがとう。

これからも新しく入院する人たちを勇気づけて下さい。

不安な気持ちを癒してあげてくださいね。



“ゴールデンウィーク中に仕事”

ゴールデンウィーク中に仕事しています。

患者さんとの散歩で花日記を初めてみました。

いつもお手入れありがとうございます。

仕事中にみるお花はとてもキレイでいやされます。

患者さんもじっくりお花を見ています。

病院というせまい無機質な空間にお花がある事はすごくありがたいです。

これからもよろしくお願いします。

入院患者さんの誕生日にウッドデッキにできた花をプレゼント

当院では入院患者さんの誕生日の朝、回診の時にウッドデッキにできた花をプレゼント。

昼食時にはメッセージと共にデザートプレゼントも行っています。





その他

NST（栄養サポートチーム）

1. 設置目的

入院患者一人一人が必要としている栄養の質及び量の摂取方法を提供し、健康を早く回復できるように支援するチーム医療

2. 委員構成

西宮（医師）、尾中（薬剤師）、嶋田（健康運動指導士）、松本（言語聴覚士）玉井（看護師）、園田（看護師）、前原（看護師）、溝部（看護師）、平川（看護師）、畑（看護師）、中村（管理栄養士）

3. 2008年度の活動報告

- ・毎週火曜日 14:00～カンファレンス及び回診

（対象患者）NST介入患者、SGA評価（B、C）患者、摂食嚥下対象患者、褥瘡患者、アルブミン値3.0未満の患者、様子見患者、食事摂取量低下患者

- ・NST介入パスの変更

食事摂取量の栄養価（カロリー、蛋白質、水分）にプラス輸液の種類及び栄養価を追加し、1日の総摂取栄養を提示する

（NST介入患者数） 3件

（様子見患者数） 33件

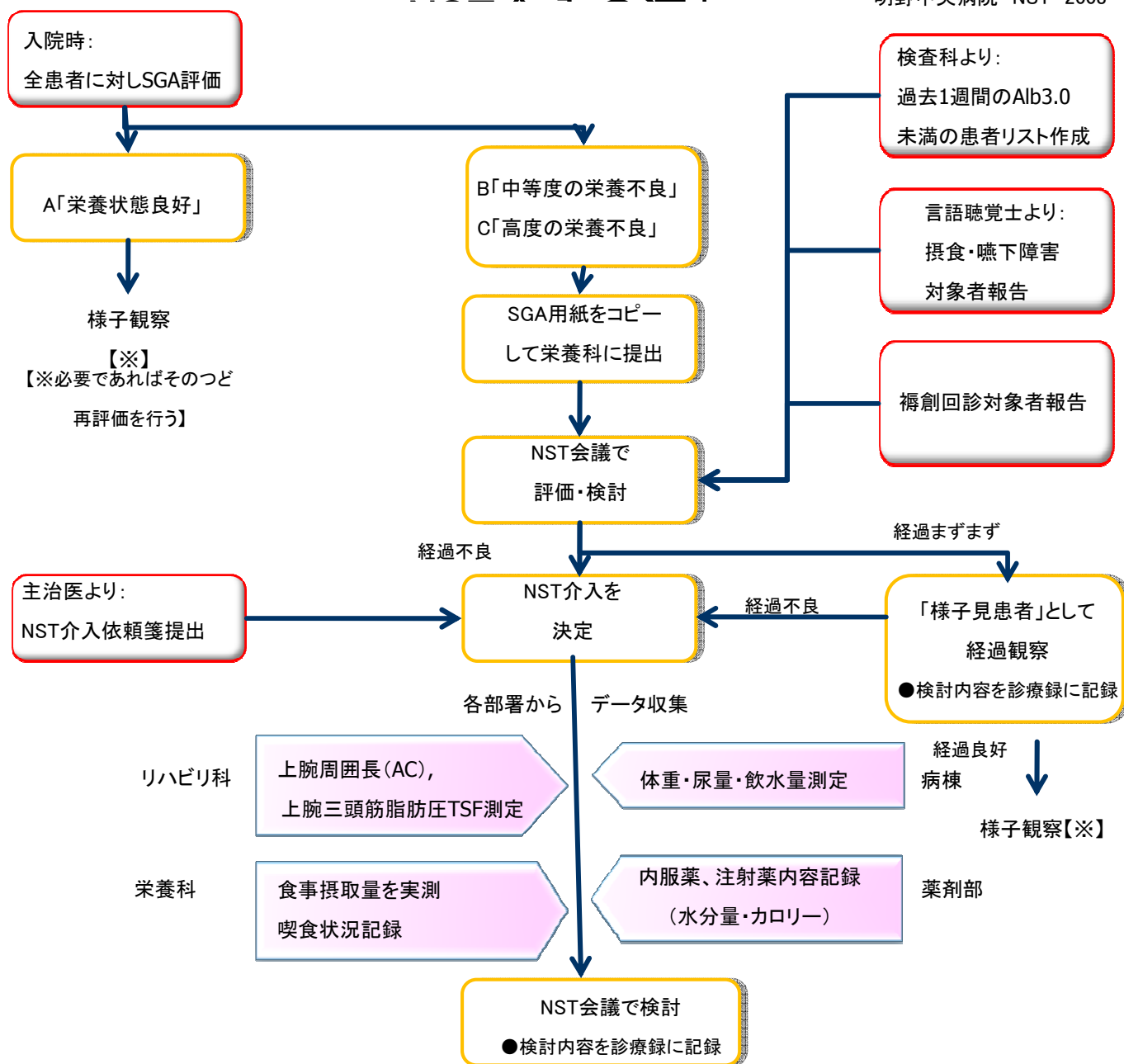
4. 2009年度の重点目標

- ①対象患者の抽出をスムーズに行い、その患者の早期退院や社会復帰を助ける
- ②対象患者に対し、適切な栄養管理が行われているかどうかを判断し、最もふさわしい栄養管理を行えるように多職種で患者をみる
- ③NSTの稼働申請をする

5. 2008年度の委員会開催日

2008年：4/1、4/8 4/15 4/22 4/30 5/13 5/20 5/28 6/3 6/10 6/17 6/24 7/1 7/8 7/15 7/22 7/30 8/5 8/12 8/19 8/26 9/2 9/9 9/16 9/22 9/29 10/7 10/14 10/21 10/28 11/4 11/11 11/18 11/25 12/1 12/9 12/16 12/22 12/30

2009年：1/6 1/13 1/20 1/27 2/3 2/10 2/16 2/24 3/3 3/10 3/17 3/24 3/31



NST会議

毎週火曜日 14:00～

NSTメンバー

医師
病棟看護師
管理栄養士
健康運動指導士
言語聴覚士
薬剤師

対象

- ① NST介入患者
- ② 様子見の患者
- ③ 摂食・嚥下障害対象者
- ④ SGA評価B、Cの患者
- ⑤ 褥創回診対象者
- ⑥ 過去1週間のAlb3.0未満の患者



糖尿病相談会

1. 設置目的

糖尿病治療にあたり、本疾患に対する患者自身とその家族における基本的知識の理解普及を高める

2. 委員構成

木下院長、中村管理栄養士、外来師(当番制)、尾中薬剤部長、溝部看護師、宇都宮検査技師、
嶋田健康運動指導士

3. 2008年度の活動報告

○第19回糖尿病相談会 テーマ「ヘルシーハンバーグを食べよう～糖尿病食の体験～」

開催日：2007年5月24日(土) 場所：管理棟会議室 参加人数：10名

開催目的：500kcalの糖尿病食の実食会を開催し、工夫することで低カロリーでも美味しくかつ
ボリューム感のある食事にする事ができる事を体験してもらうと同時に、食事療法への
理解を高める

○第20回糖尿病相談会 テーマ「めじろんにつづけ～運動療法体験～」

開催日：2008年11月8日(土) 場所：リハビリ室 参加人数：3名

開催目的：最も実践しにくい治療方法である運動療法を上手に生活に組み込むことで、糖尿病改
善効果があることを、運動療法体験を通じて学ぶ。

○第21回糖尿病相談会 テーマ「糖尿病にヘキサゴン」

開催日：2009年2月27日(金) 場所：管理棟会議室 参加人数：7名

開催目的：クイズ形式で糖尿病問題を出題し、解説を通じて糖尿病の基本的な理解を深める。
また、食事療法において基本的な講話を行い、日々の生活に役立てて頂く。

○クリニカルパスの実施 0名

4. 2009年度重点目標

2008年度の糖尿病相談会開催にあたり、昨年に続きおおむね「参考になった」との回答を得た。
しかし、参加者は治療意欲の高い患者さんに限定されてくる、開催予定日等の連絡が徹底できず
当日集まらなかった等の開催に関する問題点が残された。また、2009年度はメンバーの大幅変更が
予定されているので、新メンバーによる会の定着を目指すことと同時進行で、こうした問題点解決
に取り組む。

5. 2008年度の委員会開催日

2008年：4/7、5/20、6/9、6/23、7/27、8/13、8/31、9/1、10/6、10/20、10/28、11/6、

2009年：1/26、2/16、2/23、3/2、



親和会（厚生会）

1. スタッフ構成（2009年3月）

会 長、副会長、会 計、委 員 看護部4名、栄養科1名

2. 親和会の目的

本会は会員の親睦と福祉の向上を計ると共に 明野中央病院の発展に寄与する事を目的とする。

3. 役員改選

役員の任期は毎年4月より翌年3月末までの1年間。

4. 総会

総会は通常総会と臨時総会の2種類とする。

通常総会は毎年4月に開催し、会長が招集しなければならない。

臨時総会は会長が必要を認めたとき、又は、会員の3分の1以上の要求があったとき随時開催する。

議長は会員の選出で決定する。

総会は会員の過半数をもって成立する。但し、委任状出席を認めるものとする。

5. 会計

①収入 1. 会費 2. 寄付金 3. その他 必要に応じ臨時会費を徴収することもあり得る。

②支出 1. 旅行 2. レクリエーション 3. 忘年会 4. 慶弔見舞金 5. その他

③会計年度は 毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

④会計報告は 毎年4月の総会で行う。

6. 2008年度活動報告

①花見を実施

実 施 日：2008年4月4日

開催場所：城址公園

参加人数：64名

②ボーリング大会を実施

実 施 日：2008年6月27日

開催場所：OBS ボール

参加人数：49名

③職員旅行

沖縄

実 施 日：2008年10月4日～5日

参加人数：25名



下関

実 施 日：２００８年１０月２６日

参加人数：２８名

④バーベキュー大会を実施

実 施 日：１１月１５日

開催場所：高尾山公園

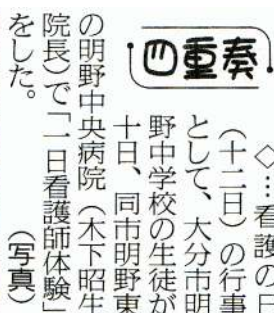
参加人数：４２名

⑤忘年会を実施

実 施 日：２００８年１２月１６日

開催場所：全日空オアシスタワー

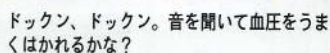
参加人数：１２５名



大分合同新聞掲載

明野中央病院

大分団地新聞掲載



植田公民館

楽しく、元気に、健やかに

5月9日(金)、植田公民館の主催講座「天使の子育て」が開講した。「天使の子育て」は生後十ヶ月からの乳幼児が対象。リズ3人の講師の紹介があつた。興味のある方は植田公民館097(54

ストレッチャーに乗って患者さんの気持ちを感じたりした。また、患者さんの足をお湯で洗ったり、誕生日の患者さんにお花をプレゼントして心遣いの大切さを学んだ。手術室ではパブリカを使った模擬手術で、内視鏡手術と顕微鏡手術を体験した。その後、看護師さんたちと一緒に病院の昼食をとり、「看護師さんにはどうやらつら成れるんですか？」などの質問を交えつつ、その日の感想を話し合った。中学生たちは貴重な経験を通して将来への確かな足がかりを得たようだった。

平成20年度 第1回 明野校区 公民館講座 開講記念講演会



5月26日、記念講演会を、明野中央病院副院長 中村英次郎先生をお迎えして「運動器不安定症・腰痛とひざの痛み」をテーマにアクロスホールにて開催しました。

講演は、背骨・腰とひざの模型、とパソコンスライドを使用して病状や日ごろ気をつけることまた治療について詳しく説明されました。さらに体重を減らし運動を毎日続ける結果が素晴らしいことを服を脱いでご自身の経験を示されたのは特に深い感銘をうけました。

参加者の婦人学級と高齢者大学の受講生の皆さん約100名は自分に関わりの深い病気であるだけに身をのりだして聞き入り、質問も多く非常に意義ある講演会でした。

明野中央病院 吉田寛さんを迎え 「笑って健康・なしかのこころ」題して講演会

明野中央病院(木下昭生院長)では、吉田寛さんを迎え「笑って健康・なしかのこころ」と題して6月13日講演会を行なった。講演会では、吉田寛さんが臼杵市のお寺で生まれ育った時の思いで話として、貧しかった事や両親に温かく見守られながら暮した経験話して臼杵や大分県の方言で面白く講演していた。会場では何時も何げなしに使っている言葉ですが、実際に聞くと大変面白く講演中は笑いが会場一杯にひびいていた。



明野タイムズ掲載

吉田寛さんは、いま皆さん達が大きな声で笑っている事が「健康につながる」のです。笑いは血液の循環が良くなり、また病気もせずに楽しい人生が送られます。皆さんこれからも笑いを通して健康で楽しい人生を送って下さいと微笑みながら話していた。

ある参加者は、今日は面白いお話で大変良く笑いました、これからは今日のお話のように何時も楽しく笑いながら明るく過ごしたいですと話していた。

6日(日曜日)

富山

富山

富山

富山

入院期間 方針で異なる

病院の
実力

大分編

腰痛の手術

高齢化と共に増える腰痛。「くらし健康」では、高齢者に多く、背骨の中の神経の通り道が狭くなる「脊柱管狭窄」の年間手術50件以上の施設を掲載したが、大分版では、全回実施の手術件数と、平均入院日数を紹介する。

手術件数は、手術の経験

病院の実力「腰痛」

医療機関別2007年治療実績（読売新聞調べ）

医療機関名	脊柱管狭窄		椎間板ヘルニア		手術率
	手術件数	平均入院日数	手術件数	平均入院日数	
総合せき損セ	381	34	148	28	27
九州厚生年金	112	9.5	32	8	-
九州中央	109	18	21	7	26
久留米大	92	27	19	17	12
おおみや整形外科	86	26	45	13	12
北九州市立医療セ	80	14	48	10	26
厚生会佐田	76	30	95	26	9
福岡整形外科	44	33	53	29	5
産業医大	44	16	17	12	5
かい整形外科医院	42	43.5	12	24.5	5
三菱化学	11	26	1	14	-
福岡リハ	10	36	14	28	2
新古賀	3	18	0	-	1
佐賀社会保険	80	15	68	11	19
県立好生館	15	34	14	21	9
唐津赤十字	10	27	4	30	6
長崎労災	151	12	182	10	13
長崎三菱	121	28.9	197	22.7	13
長崎原爆	91	16	57	16	-
管整形外科	48	28	44	21	5
島原整形外科西村ク	46	38	36	38	5
増田整形外科	18	21	12	14	2
熊本中央	300	12	80	10	19
成尾整形外科	292	20	202	18	55
中村整形外科	130	14	63	12	9
熊本整形外科	122	28	146	28	29
国・熊本医療セ	92	14	31	7	25
熊本大	40	14	13	12	22
熊本機能	20	43	19	33	-
杵築市立山香	245	24	57	18	14
大分大分整形外科	184	21	95	14	11
明野中央	42	20	24	9	7
永島記念	14	35	6	21	5
宮崎大	77	25	26	14	-
潤和会記念(脳)	38	18	12	14	51
宮崎社会保険	30	18.7	38	18.0	9
整形外科前原	16	60	21	40	2
南風	132	26.4	78	19.1	12
やなせ整形外科	132	14	26	14	12
整形外科米盛	111	28.9	99	22	26
鹿児島赤十字	64	22	35	8	15
鹿児島大	30	25	3	10	-

病院追加 6月1日の「病院の実力 脳卒中治療」で、下記の医療機関を追加します。数字は左から、脳卒中患者数、破裂脳動脈瘤(りゅう)の開頭手術数、脳血管内治療数、リハビリスタッフ数。

福岡徳洲会(福岡) 548 41 19 44
北九州総合(福岡) 294 9 0 27

をはかる基本的な数値で、手術率(%)は腰痛患者に占める脊柱管狭窄と、椎間板ヘルニア両手術の合計の

割合。手術と保存療法の比率を示している。各施設の治療に対する考え方や地域における役割をうかがう

えでの目安になる。各施設の特徴は入院日数にも表れ、ばらつきが大きかった。脊柱管狭窄では、

全国平均が20・4日。最短は3日、最長は60日だった。椎間板ヘルニア手術では、

全国平均が14・8日。最短は2日、最長は74日だった。日本脊椎椎病学会理事の長瀬地臣(さん)(福岡県立医大教授)は「高齢者の

読売新聞掲載



パブリカを使って手術体験



パブリカを「執刀」
明野中2年生が
病院で職場体験
大分市明野中学校（鶴田茂校長）の二年生三百三十三人は、九日から十日までの三日間、市内八十三の事業所で職場体験学習をした。

同校近くの明野中央病院では、若生彩佳さん（ミ）顔写真右と広瀬千恵里さん（ニ）同中、永利美咲さん（ロ）同左が体験。二人は病室のシーツの交換、患者の足浴の手伝いなどをした。

し、メスの切れ味に驚いていた。また、顕微鏡を使ってパブリカの種を取り出す「治療」に悪戦苦闘していた。若生さんは「大変だけど、楽しかった。将来はここで働きたい」。広瀬さんは「看護師になりたいので、学んだことをしっかり覚えておきます」。永利さんは「最初は緊張したが、患者と触れ合えてうれしかった」と感想を話した。

大分合同新聞掲載

救急の日行事

▽大分市消防局 九日、市内の看護師五人を「一日救急隊長」に委嘱した。

（写真）

関貞征局長が、盛田明美さん（明野中央病院）、衛藤さおりさん（大分岡病院）、永尾哲子さん（大分こども病院）、芝日出美さん（佐賀関病院）、佐々木綾さん（天心堂へつぎ病院）に委嘱状を手渡ししてあいさつ。

五人は、救急隊員と意見交換した後、一一九番を受



ける通信指令センターで、通信員が対応する様子を見学。街頭で「救急の日」をPRし、救急車の適切な利

大分合同新聞掲載

用を呼び掛けた。
同局によると、市内の救急出動件数は年々増加している。昨年一年間は一万四千五百六十件で、急病が半数を占めた。

この後、聖マリア病院（久留米市）の吉田健治整形外科部長が講演した。

競技中に起こりやすい症例は

国体控え大分市で外傷研究会

第七回大分外傷研究会が大分市のホテルであった。大分国体の開催を目前に控え、熱中症やねんざ、脱臼など競技中に起こりやすい症例を整形外科医が発表し、検討した。医師、看護師らが参加。県厚生連鶴見病院



症例を発表、検討。熱心に話を聞く参加者

大分大学付属病院の原一医師は肩関節の後方脱臼、大分三愛メディカルセンター（大分市）の内田研医師は足首のねんざ、麻生の整形外科クリニック（同）の麻生邦一院長は指の脱臼骨折について発表した。会場からは「整備はその場で行うのではなく、病院に搬送し、正確な診断をしてから処置すべき」との意見があった。

大分合同新聞掲載

競技中に起こりやすい症例は

国体控え大分市で外傷研究会

第七回大分外傷研究会が大分市のホテルであった。大分国体の開催を目前に控え、熱中症やねんざ、脱臼など競技中に起こりやすい症例を整形外科医が発表し、検討した。医師、看護師らが参加。県厚生連鶴見病院



症例を発表、検討。熱心に話を聞く参加者

大分大学付属病院の原一医師は肩関節の後方脱臼、大分三愛メディカルセンター（大分市）の内田研医師は足首のねんざ、麻生の整形外科クリニック（同）の麻生邦一院長は指の脱臼骨折について発表した。会場からは「整備はその場で行うのではなく、病院に搬送し、正確な診断をしてから処置すべき」との意見があった。

大分合同新聞掲載

明野中央病院健康セミナーのお知らせ

“華麗なるヒコーキ野郎”85歳現役パイロット

超人飛行機乗りが語る「戦争と平和と健康」

講師：高橋淳（日本飛行連盟名誉会長）
日時：10月18日 18:00～19:30
場所：あけのアクロスタウンアクロスホール
参加費：無料（整理券が必要）
主催：明野中央病院



明野タイムズ掲載

明野中央病院（木下昭生院長）は、高橋淳氏（日本飛行連盟名誉会長、85歳）を迎えて健康セミナーを開催します。

高橋氏は、戦中から戦後、現在まで日本のパイロット第一人者として活躍、戦争、飛行機、そして健康作りまで、豊富で貴重な経験をユーモアを交えて語る楽しい講演会です。「僕の操縦は昨年より今年の方が進歩していると思う。そう思えなくなったらプロ引退です」身長180cm、体重63kg。生涯現役を貫く超人の大空からの壮大なメッセージをお楽しみ下さい。

お問い合わせ先

明野中央病院 里谷 TEL 558-3211



中村英次郎
副院長

大分市の明野中央病院

手の外科学会の 基幹研修施設に

大分市の明野中央病院が日本手の外科学会の基幹研修施設に認定された。

基幹研修施設は①（外傷や疾患など）手の外科の手術が三年間平均して百例以上ある②手の外科専門医が常勤している③研修カリキュラムに基づく研修ができる④などが認定の要件。

同病院は年間二百例以上の症例があり、中村英次郎副院長が日本手の外科学会の専門医。中村副院長は「手は機能が大切な箇所。それぞれの患者の仕事や日常生活まで見ながら治療を行う。そのような治療ができる若く優秀な専門医の養成とともに、手の専門的なリハビリができるハンドセラピストの育成にも取り組み、県内の手の外科治療の発展に貢献したい」と話している。

県内ではほかに麻生整形外科クリニック（大分市）が同施設に認定されている。

日本手の外科学会は、手に関する外科の進歩、発展を図るため、学術集会や専門誌発行、専門医や研修施設の認定などを行っている。

大分合同新聞掲載

明野中央病院健康セミナー

“華麗なるヒコーキ野郎” 85歳 現役パイロット

生涯現役、反骨の超人飛行機乗りが語る「俺流！人生の歩き方」

講師：高橋 淳 氏（日本飛行連盟名誉会長）

日時：10月18日（土） 18時～19時30分

場所：あけのアクロスタウン3階 アクロスホール

参加費：無料（整理券が必要です）

整理券の配布は、明野中央病院受付

あけのアクロス総合案内・大分銀行明野支店横通路

明野校区公民館・明治明野公民館にて

お問い合わせは、明野中央病院まで

TEL 097-558-3211 FAX 097-558-3709

おおいたイベント案内

大分合同新聞掲載

大分合同新聞掲載

障害者スポーツの「父」
中村博士夫人・広子さん

障害者スポーツ発祥の地、大分。その礎を築いた故・中村裕博士（太陽の家創設者）の夫人、広子さん（中村裕記念身体障害者福祉財団理事長）

「先人の積み重ね、開花」

「1961年に初めて開いた県大会では、けた履きで手ぬぐいを腰に巻いた選手たちが入場行進をしていました。今の選手は立派。『障害者スポーツもここまで認知されたのか』と思うと感慨深いですね」

「障害者スポーツは競技性が高まり、プロ選手が活躍する時代に。競技種目も増えていっています」

「1961年に初めて開いた県大会では、けた履きで手ぬぐいを腰に巻いた選手たちが入場行進をしていました。今の選手は立派。『障害者スポーツもここまで認知されたのか』と思うと感慨深いですね」

「障害者スポーツは競技性が高まり、プロ選手が活躍する時代に。競技種目も増えていっています」

明野タイムズ掲載

別保校区七輪の街づくり
健康講座開催

主催 つるさき七輪の街づくり
共催 別保校区公民館

別保校区七輪の街づくり健康講演には、別保校区七輪の街づくり推進委員会（貞松統一会長）主催と、別保校区公民館（佐藤義憲館長）共催で、明野中央病院木下昭生院長を迎えて、「日々の健康づくり」と題して講演会を十月五日別保公民館で行なわれた。

明野中央病院
木下昭生
院長

講演会では糖尿病を主として講演し、糖尿病は高血糖の状況が続く病気で、一口渇・多尿・体重減少等の病状があります。軽症では無病状ですと話し、(二)糖尿病にならない方法として、食事療法や運動療法等があります。(三)糖尿病は他人事ではありません。今の食習慣や生活習慣の見直しで、自己管理ができれば普通の人より健康に生活出来ますと講演していた。

ある出席者は、今日の講演で自分に当てはまる病状があります。これからは食習慣や生活習慣の見直しで健康管理に務めますと話していた。



現役最高齢パイロット

大分市の明野中央病院は十八日 午後六時から、あけのクロスミナール、血液輸送などのウン三階クロスミナールで健康セミナーを開く。八十六歳で現役最高齢のプロパイロット高橋淳さんが、戦争と平和、健康などをテーマに講演する。

助、パトロール、飛行時間は通算二万四千五百時間に達する。

毎年の航空身体検査は、すべて理想的な数値。腹八分目の食事、入浴後の冷水シャワー、一年中半

86歳 高橋淳さんが講演

あす 大分市

高橋さんは十八歳で予科練に入隊。戦況の厳しい南方戦線や沖縄戦に配属された。予科練の同期は八割五分が戦死したという。戦後は日本飛行連盟に参加し、民間操縦士の養成や訓練を行う傍ら、赤十字飛行隊長として災害時の救

袖半ズボンのパジャマで七時間以上の睡眠は欠かさないことが健康の秘訣という。東京在住。日本飛行連盟名誉会長。聴講は無料だが整理券が必要。問い合わせは同病院(097・558・3211、事務部里谷さん)へ。

明野中央病院 華麗なるヒコキ野郎 高橋淳さんを迎えて健康セミナー



高橋淳さんを囲んでシンポジウム

明野中央病院(木下昭生院長)は、日本飛行連盟名誉会長高橋淳さんを迎えて健康セミナーを、十月十八日約三〇〇名の参加であけのクロスミナールで開催した。

健康セミナーでは、大正十一年に生まれ今年八十六歳で現役のパイロット、昭和十六年十八歳で予科練に入隊、敗戦濃厚な沖縄戦に鹿児島出水から飛び立った経験話や、敗戦後赤十字飛行隊長として、災害時の救助や血

液輸送等に活躍していた。高橋淳さんは、私の健康管理は、腹八分目の食事と入浴後の冷水シャワー、一年中半袖半ズボンのパジャマで、毎日七時間は必ず睡眠を取る事で健康管理をしていますと話していた。またシンポジウムでは、パネリストに高橋淳さんと木下昭生院長と中村英次郎副院長で、「毎日をイキイキ、カッコ良く過ごすために健康って何だろう」と題して、高橋淳さんの健康管理や、病院で患者さんの病気に対しての食事法や、適度の運動の勧め等いろんな討議がされていた。

ある参加者は、高橋淳さんの偉大な体験話や、明野中央病院は地域医療にいろんな事に貢献されている事を知り明野に住んでいる私は安心しました。また今日の健康セミナーで学んだ事を生かしながら毎日を楽しく過ごしたいですと話していた。

明野中央病院でクリスマス会



明野中央病院（木下昭生院長）では、明野中央病院ボランティアの会（志水篤信会長）の主催で十二月六日クリスマス会を行なった。会場には、入院患者さんやその家族の方々等沢山の



方々が参加し、演芸では明野ひよつとこ同好会のフラダンス、益守昌子さん、渡辺節子さん、藤田百合子さん三名の「玄海船唄」、小坂元幸人さん、ミチ子さん夫婦の「ひとすじ」の見事な民踊と、星野邦昭さんの「恋女房」のカラオケ、また小学生も参加したひよつとこ踊り、最後には、参加者全員でジングルベルを賑や

明野タイムズ掲載

かに歌いながら楽しい一時を過ごしていた。
ある患者さんは、入院して三カ月ですが、こんなに楽しいクリスマス会が三回目だとお聞きしてびっくりしましたと話していた。
ボランティアの会の志水篤信会長、今年もいろんな方々のご協力を頂いてクリスマス会が大変賑わった事に大変感謝していますと話していた。

笑いはいのいい薬 明野中央病院 で「新春寄席」

大分市明野東の明野中央病院（木下昭生院長）は十日、同病院で「新春寄席」を開催した。患者や地域住民に楽しい時間を過ごしてもらう目的で初めて企画。住民ら約百人が訪れた。県南落語組合大分支部（関三千男支部長）のメ



落語を披露する県南落語組合メンバー（左端）

ンバー四人が、「老婆の休日」「千早振る」など

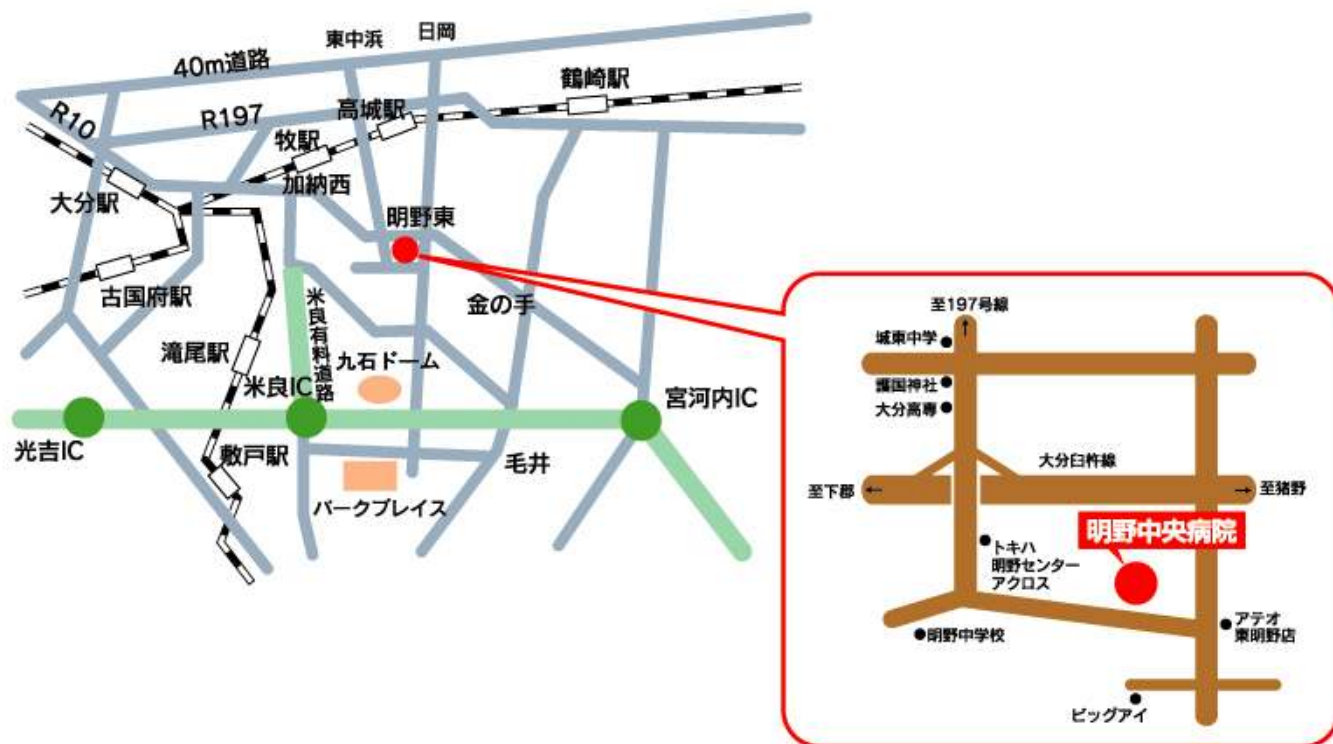


安東時男さんは「初天神」を、豊かな表情と大きな

な身ぶりで演じた。父と子が団子のたれをなめる場面では爆笑が起き、笑い過ぎてこぼれた涙をぬぐう人も。
石橋龍二さん（八〇）同市明野南・顔写真「はいっぱい笑った。心のいい薬になった」とにっこり。

大分合同新聞掲載

明野中央病院へのアクセス



医療法人社団唱和会 明野中央病院

〒870-0161 大分県大分市明野東2丁目7番33号

TEL (097) 558-3211 FAX (097) 558-3709

E-mail : akenohp@fat.coara.or.jp

<http://www.coara.or.jp/~akenohp/>